



Your Reliable Partner

KW7 シリーズ

(KW7, KW7-G)

AMD Athlon™ XP システムボード
Socket 462

ユーザーマニュアル

著作権と補償について

このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なく変更される場合があります。本マニュアルの作成には万全を期しておりますが、万一誤りが合った場合はご容赦願います。

本製品の特定用途への適用、品質、または商品価値に関して、明示の有無に関わらず、いかなる保証も行いません。このマニュアルや製品上の表記に誤りがあったために発生した、直接的、間接的、特殊な、また偶発的なダメージについて、いかなる保証も行いません。

このマニュアルに記載されている製品名は識別のみを目的としており、商標および製品名またはブランド名の所有権は各社にあります。

このマニュアルは国際著作権法により保護されています。本書の一部または全部を弊社の文書による許可なく複製または転用することは禁じられています。

マザーボードを正しく設定しなかったことが原因で発生した故障については、弊社では一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章	はじめに	1-1
1-1.	機能と仕様.....	1-1
1-2.	レイアウト.....	1-3
第 2 章	ハードウェアのセットアップ	2-1
2-1.	マザーボードのインストール.....	2-1
2-2.	CPU およびヒートシンクの取付け.....	2-1
2-3.	システムメモリの取付け.....	2-3
2-4.	コネクタ、ヘッダ、スイッチ.....	2-5
(1).	ATX 電源入力コネクタ.....	2-5
(2).	FAN コネクタ.....	2-6
(3).	CMOS メモリクリアリングヘッダ.....	2-7
(4).	S2K モード選択ヘッダ.....	2-8
(5).	ウェークアップヘッダ.....	2-9
(6).	前面パネルのスイッチとインジケータ接続.....	2-10
(7).	追加 IEEE1394 ポートヘッダ.....	2-11
(8).	追加 USB ポートヘッダ.....	2-12
(9).	前面パネルのオーディオ接続ヘッダ.....	2-13
(10).	内部オーディオコネクタ.....	2-14
(11).	加速式グラフィックスポートスロット.....	2-14
(12).	フロッピーと IDE ディスクドライブコネクタ.....	2-15
(13).	シリアル ATA コネクタ.....	2-16
(14).	背面パネルの接続.....	2-17
第 3 章	BIOS について	3-1
3-1.	SoftMenu Setup.....	3-2
3-2.	Standard CMOS Features.....	3-5
3-3.	Advanced BIOS Features.....	3-9
3-4.	Advanced Chipset Features.....	3-12
3-5.	Integrated Peripherals.....	3-20
3-6.	Power Management Setup.....	3-26
3-7.	PnP/PCI Configurations.....	3-29

3-8.	PC Health Status	3-30
3-9.	Load Fail-Safe Defaults	3-31
3-10.	Load Optimized Defaults	3-31
3-11.	Set Password	3-31
3-12.	Save & Exit Setup	3-31
3-13.	Exit Without Saving.....	3-31
付録 A.	VIA 4-in-1 ドライバのインストール.....	A-1
付録 B.	オーディオドライバのインストール.....	B-1
付録 C.	LAN ドライバのインストール.....	C-1
付録 D.	VIA USB 2.0 ドライバのインストール.....	D-1
付録 E.	シリアルATA RAID ドライバのインストール.....	E-1
付録 F.	ABIT EQ (Hardware Doctor ユーティリティ)	F-1
付録 G.	FlashMenu (BIOS 更新ユーティリティ)	G-1
付録 H.	トラブルシューティング.....	H-1
付録 I.	テクニカルサポートの受け方について.....	I-1

第 1 章 はじめに

1-1. 機能と仕様

1. CPU

- AMD-K7 Socket A, 200/266/333/400MHz FSB プロセッサをサポート

2. チップセット (VIA KT880 / VT8237)

- 高速ユニバーサルシリアルバス (USB 2.0) をサポート
- 電力制御インターフェイス (Advanced Configuration and Power Interface) (ACPI) をサポート
- 加速式グラフィックスポート (Accelerated Graphics Port) コネクタが AGP 4X/8X (1.5V/0.8V) モードの (側波帯) デバイスをサポート (AGP 3.0 Compliant)

3. メモリ

- 4つの 184 ピン DIMM ソケット
- デュアルチャンネル DDR 266/333/400 サポート (最大 4GB)

4. シリアル ATA 150 RAID

- サウズブリッジを介して RAID 機能 (0/1) を使用する 2 チャンネルのシリアル ATA 150MB/秒のデータ転送速度

5. IEEE 1394

- 100/200/400 Mb/秒の転送速度で 2 ポートの IEEE 1394 をサポートします (**KW7-G**)

6. LAN

- オンボード 10/100/1000M LAN コントローラ (**KW7-G**)
- オンボード 10/100M LAN コントローラ

7. オーディオ

- オンボードの 6 チャンネル AC 97 CODEC
- プロ仕様のデジタルオーディオインターフェイスの S/PDIF 入出力をサポート

8. ABIT 開発元

- ABIT SoftMenu™ テクノロジー
- ABIT FanEQ™ テクノロジー
- ABIT FlashMenu™ テクノロジー
- ABIT CPU ThermalGuard™ テクノロジー

9. 内部 I/O コネクタ

- 1x AGP スロット
- 5x PCI スロット

- 1x フロッピーポートが 2.88MB までサポート
- 2x Ultra ATA 133/100/66/33 コネクタ
- 2x シリアル ATA 150 コネクタ
- 2x USB 2.0 ヘッダ
- 1x IEEE1394 ヘッダ (**KW7-G**)
- 1x CD-IN ヘッダ

10. 背面パネル I/O

- 1x PS/2 キーボード、1x PS/2 マウス
- 1x シリアルポートコネクタ, 1x パラレルポートコネクタ
- 1x S/PDIF インコネクタ
- 1x S/PDIF アウトコネクタ
- 1x AUDIO1 コネクタ (リアレフト / リアライト、センター/サブウーファ)
- 1x AUDIO2 コネクタ (マイクイン、ラインイン、フロントレフト/フロントライト)
- 2x USB 2.0 コネクタ、1x IEEE 1394 コネクタ (**KW7-G**)
- 2x USB 2.0 コネクタ、1x RJ-45 ギガビット LAN コネクタ

11. その他

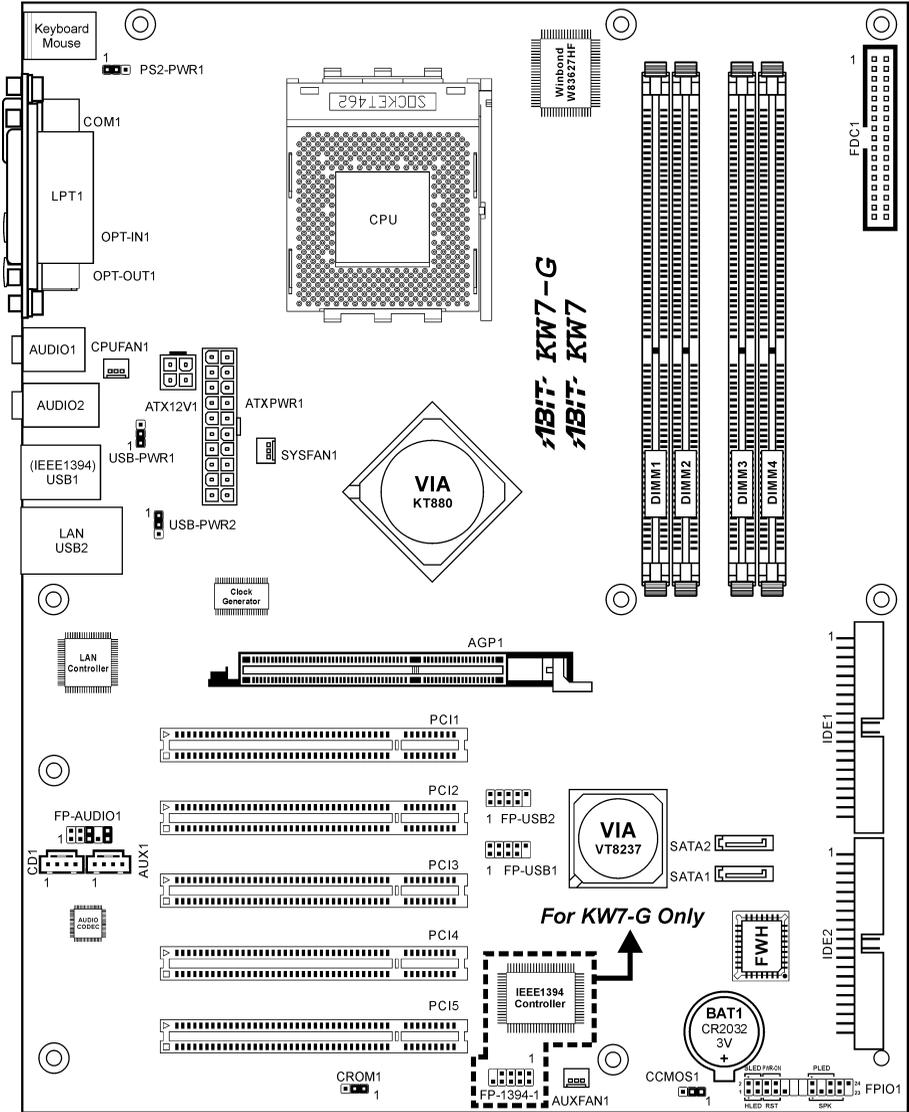
- ATX フォームファクタ (305x245mm)
- ハードウェア監視 – ファン速度、電圧、CPU とシステム温度および他のデバイス温度監視用のサーマルヘッダを含む

12. オーダー情報

モデル	機能
KW7-G	GbE LAN, IEEE1394, S/PDIF In/Out, 6-ch Audio
KW7	10/100M LAN, S/PDIF In/Out, 6-ch Audio

※ 本書に記載されている仕様および情報は予告なしに変更されることがあります。

1-2. レイアウト





第2章 ハードウェアのセットアップ

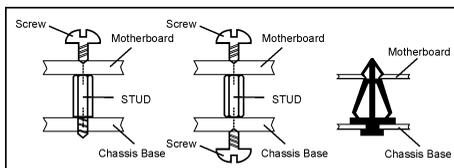
取付けを開始する前に：ATX12V の電源装置のスイッチをオフにする(+5V スタンバイ電源を完全にオフにする)、または取り付ける前に電源コードを外す、またはコネクタやアドオンカードのプラグを抜く、以上のことを忘れないでください。さもないと、マザーボードコンポーネントまたはアドオンカードが故障したり破損する可能性があります。

2-1. マザーボードのインストール

ほとんどのコンピュータシャーシには、マザーボードを安全に固定し、同時に回路のショートを防ぐ多数の穴のあいた基板があります。マザーボードをシャーシの基板に固定するには次の2つの方法があります。

1. スタッドを使用する
2. スペーサーを使用する

原則的に、マザーボードを固定する最善の方法はスタッドを使用することです。スタッドを使用できない場合にのみ、スペーサーを使ってボードを固定してください。マザーボードを注して見ると、多くの取り付け穴が空いているのがわかります。これらの穴を基板の取り付け穴の位置に合わせてください。位置をそろえた時にネジ穴ができたなら、スタッドとネジでマザーボードを固定できます。位置をそろえてもスロットしか見えない時は、スペーサーを使ってマザーボードを固定します。スペーサーの先端をもってスロットに挿入してください。スペーサーをすべてのスロットに挿入し終わったら、マザーボードをスロットの位置に合わせて挿入してください。マザーボードを取り付けたら、すべてに問題がないことを確認してからコンピュータのケースをかぶせてください。



注意：PCB サーキットのショートを防ぐために、金属製ボルトとスペーサーがすでにシャーシ台にしっかりと取り付けられ、マザーボード上に一直線に合うような取り付け穴がない場合、それらのボルトとスペーサーを取り外してください。

2-2. CPU およびヒートシンクの取付け

注意

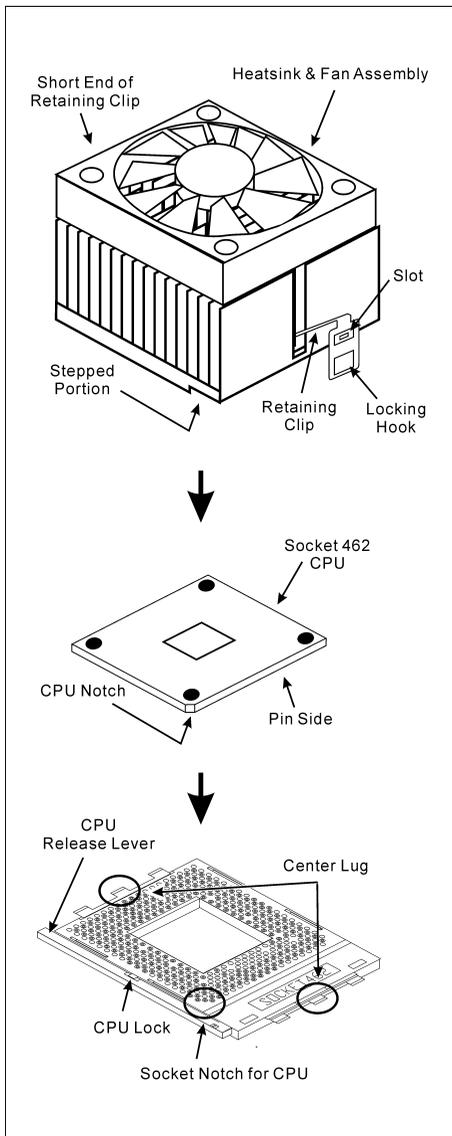
- プロセッサから熱を放散させるために、ヒートシンクと冷却ファンの取り付けが必要となります。これらのアイテムを取り付けないと、プロセッサが加熱して故障する原因となります。
- AMD Socket A プロセッサは操作中にかなりの熱を発生するため、このプロセッサ用に特別に設計された大型のヒートシンクを使用する必要があります。さもなければ、加熱して、プロセッサが破損する可能性があります。

- プロセッサファンとその電源ケーブルが正しく取り付けられていない場合、ATX 電源ケーブルをマザーボードに絶対に接続しないでください。これで、プロセッサの破損を防ぐことができます。
- 取り付けの支持に関する詳細情報は、プロセッサの取り付けマニュアル、またはプロセッサに付属するその他のドキュメントをご覧ください。

このマザーボードは ZIF（ゼロインサージョンフォース）Socket 462 を提供して AMD Socket A CPU をインストールします。お買い上げになった CPU には、ヒートシンクと冷却ファンのキットが付属しています。付属していない場合、Socket A 向けに特別に設計されたキットをお求めください。

ここに示した図を参照して、CPU とヒートシンクを取り付けます（この図は参照専用です。お使いのヒートシンクとファンアセンブリはこの図と異なっていることがあります）。

1. このマザーボードの Socket 462 を探します。CPU のリリースレバーを横に引っ張って掛け金を外し、上まで引き上げます。
2. CPU のノッチを CPU のソケットのノッチに合わせます。そのピンの横側を下にして CPU のソケットに差し込みます。CPU に差し込むときに無理な力を入れないでください。ピンは一方向にだけフィットするようになっています。CPU のリリースレバーを閉じます。
3. ヒートシンクのプラスチックフィルム接着剤をはがします。ヒートシンクの段のある部分が“Socket 462”の文字のある側を向いていることを確認してください。ヒートシンクの面を下にして、プロセッサを完全に覆うまで降ろします。
4. まず支持クリップの短い方の端を押し下げて、ソケット下部のセンターラグに固定します。
5. ネジ回しを使用して、支持クリップの長い方の端のスロットに差し込みます。クリップを押し下げて、ソケット上部のセンターラグに固定します。これで、ヒートシンクとファンアセンブリが CPU のソケットにしっかり取り付けられました。
6. ヒートシンクとファンアセンブリのファンコネクタを、マザーボードのファンコネクタに取り付けます。



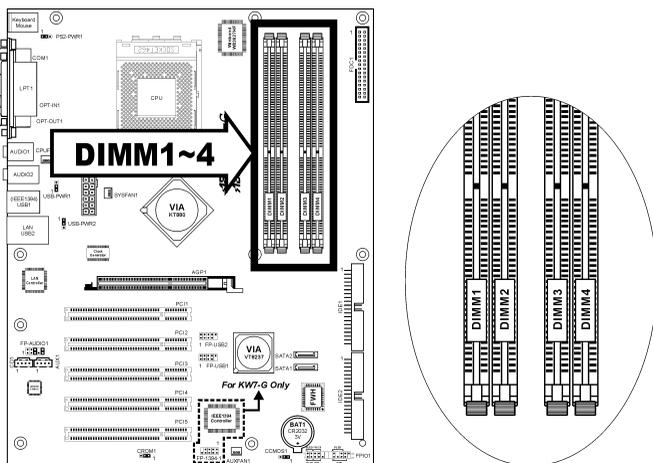
注意: プロセッサに対して、正しいバス周波数とマルチプルに設定することを忘れないでください。

2-3. システムメモリの取付け

本マザーボードは、4GB までのメモリ拡張サイズを持つ、デュアルチャネル DDR 400/333/266 メモリモジュール用に、4つの184ピンDDR DIMM スロットを提供します。

デュアルチャネル DDR の性能を得るには、次の規則に従う必要があります。

- **2つのDIMMモジュールを取り付けるとき:** スロット[DIMM1]+[DIMM3]またはスロット[DIMM2]+[DIMM4]に対して同じタイプとサイズのDIMMモジュールを取り付けます。
- **4つのDIMMモジュールを取り付けるとき:** スロット[DIMM1]+[DIMM3]、およびスロット[DIMM2]+[DIMM4]に対して同じタイプとサイズのDIMMモジュールを取り付けます。

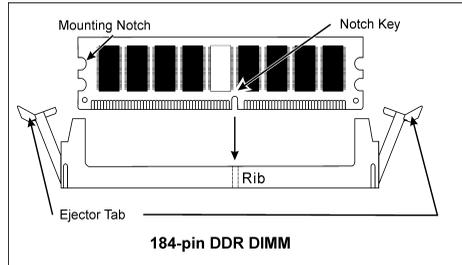


バンク	メモリモジュール	合計
Bank 0, 1 (DIMM1)	256MB, 512MB, 1GB	256MB ~ 1GB
Bank 2, 3 (DIMM2)	256MB, 512MB, 1GB	256MB ~ 1GB
Bank 4, 5 (DIMM3)	256MB, 512MB, 1GB	256MB ~ 1GB
Bank 6, 7 (DIMM4)	256MB, 512MB, 1GB	256MB ~ 1GB
システムメモリの合計		256MB ~ 4GB

注: メモリモジュールを取り付けたり、取り外したりした後は、ハードウェアやBIOSセットアップの必要はありませんが、互換性に関する問題が生じた場合はCMOSメモリを消去してください。

メモリモジュールの取り付け/取り外しを行う前に、コンピュータの電源をオフにして AC 電源コードを抜いてください。

1. ボードの DIMM スロットを探します。
2. DIMM モジュールのコネクタに触らないようにしながら、その両端をそっと持ちます。
3. モジュールのノッチキーをスロットのリブに合わせます。



4. モジュールをスロットにしっかり押しと、スロットの両側のイジェクタタブが取り付けノッチにカチッと音を立てて自動的に固定されます。DIMM モジュールを差し込むときに無理な力を入れないでください。DIMM モジュールは一方向にだけフィットするようになっています。
5. DIMM モジュールを取り外すには、スロットの2つのイジェクタタブを同時に外側に押しつけてから、DIMM モジュールを取り出します。

注意: 静電気はコンピュータの電気コンポーネントやオプションのボードを破損する恐れがあります。これらの手順を開始する前に、アースされた金属物質に軽く触れることで、静電気を確実に放電してください。

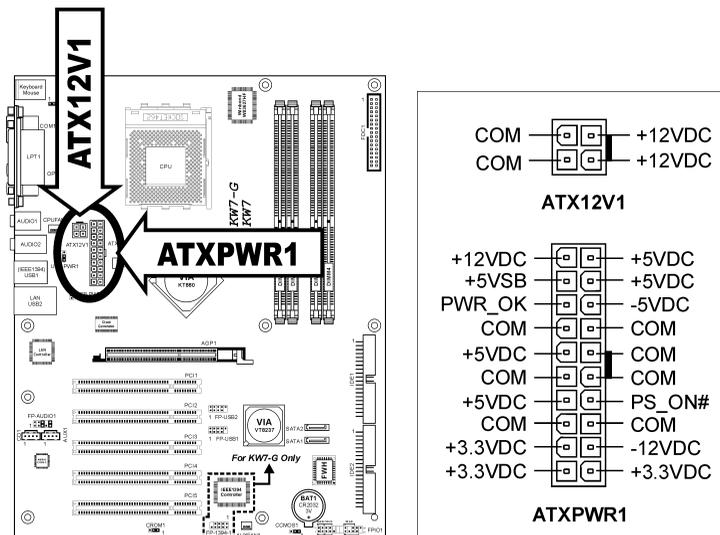
2-4. コネクタ、ヘッダ、スイッチ

ここでは、コネクタ、ヘッダ、スイッチと、その接続方法が全て表示されています。コンピュータのシャーシ内に全てのハードウェアを取り付ける前に、全ての項を読んで必要な情報を頭に入れてください。参照のために、ボード上のコネクタとヘッダの全ての位置に対応する完全な拡大配置図を第1章に示します。

警告: 周辺機器やコンポーネントを追加したり取り外す前に、必ずコンピュータの電源をオフしてから、ACアダプタのプラグを抜いてください。さもなければ、マザーボードや周辺機器が重大な損害をこうむることもあります。全てを十分にチェックした後で、AC電源コードのプラグを差し込んでください。

(1). ATX 電源入力コネクタ

このマザーボードは電源接続のための2つの電源コネクタを提供しています。



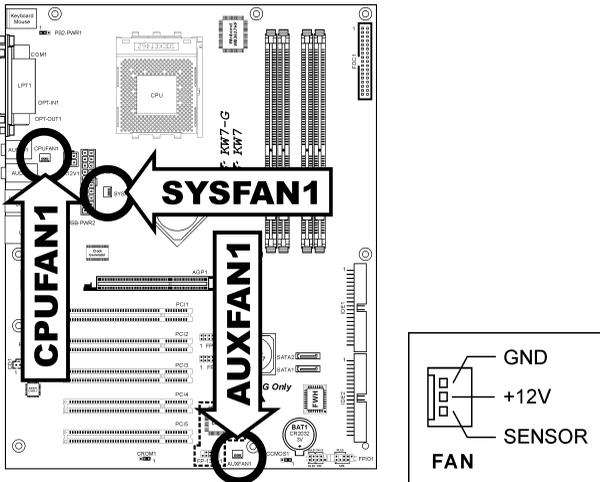
(2). FAN コネクタ

これらの3ピンコネクタはそれぞれ、システムに取り付けられたクーリングファンに電源を供給します。

CPUは、ヒートシンクを装備した強力なファンにより冷却される必要があります。システムは、CPUファンの速度を監視することができます。

- CPUFAN1 : CPU ファン
- SYSFAN1 : システムファン
- AUXFAN1 : 補助ファン

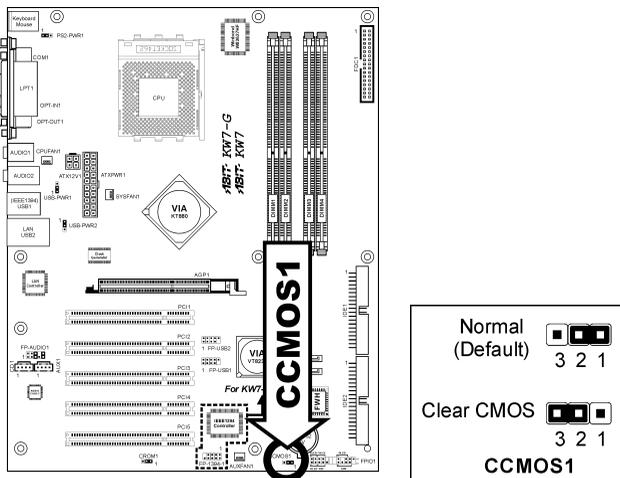
警告: これらのファンコネクタはジャンパではありません。これらのコネクタにジャンパキャップをかぶせないでください。



(3). CCMOS1 メモリクリアリングヘッダ

この CCMOS1 ヘッダはジャンパキャップを使用して、CMOS メモリを消去します。

- **ピン 1-2 ショート (デフォルト)** : 標準操作。
- **ピン 2-3 ショート** : CMOS メモリの消去。



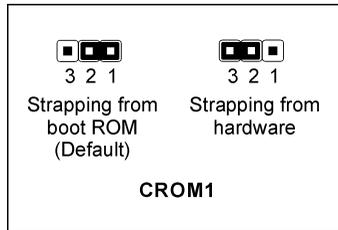
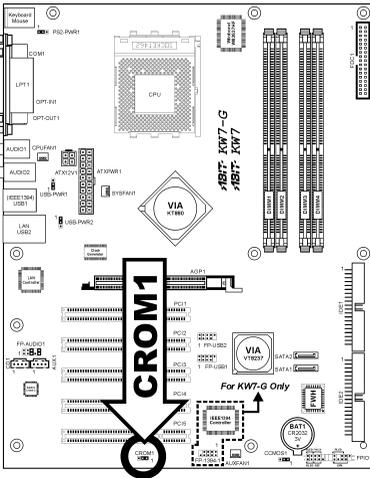
警告 : CMOS メモリをクリーニングする前に、まず(+5V スタンバイ電源を含め)電源をオフにしてください。さもなければ、システムが異常な動作を引き起こしたり故障する可能性があります。

(4). S2K モード選択ヘッダ

このヘッダはジャンパを使用して、S2K モードを選択します。

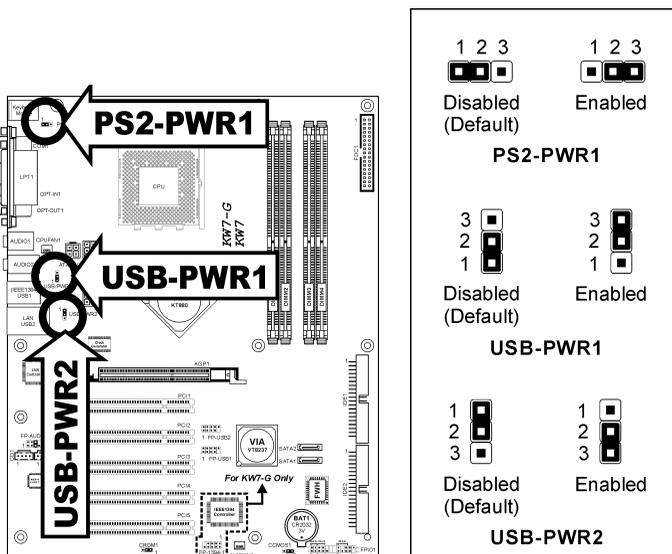
“ハードウェアからストラッピングする”ための短いピン 2 およびピン 3 により、CPU ハードウェアは S2K バスのタイミングを制御してシステムの柔軟性を高めることができます。

デフォルトの設定は“起動 ROM からストラッピングする”ための短いピン 2 とピン 2 で、内部の起動 ROM が S2K バスのタイミングを制御できるようにしています。BIOS メニューの“CPU ファーストコマンドデコード” オプションは、それに応じて有効にされます。



(5). ウェークアップヘッド

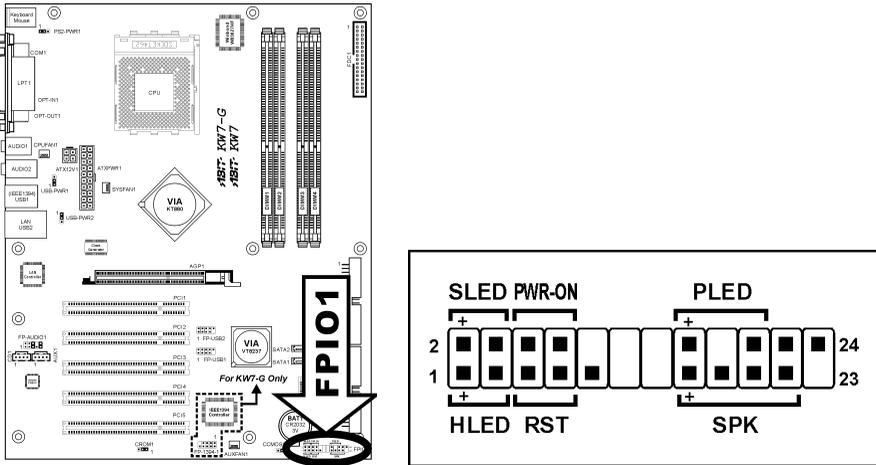
- PS2-PWR1:**
 ピン 1-2 ショート (デフォルト) : キーボード/マウスポートでのウェークアップ機能のサポートを無効にします。
 ピン 2-3 ショート : キーボード/マウスポートでのウェークアップ機能のサポートを有効にします。
- USB-PWR1 :**
 ピン 1-2 ショート (デフォルト) : USB1 ポートでのウェークアップ機能は無効にします。
 ピン 2-3 ショート : USB1 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。
- USB-PWR2:**
 ピン 1-2 ショート (デフォルト) : USB2 ポートでのウェークアップ機能は無効にします。
 ピン 2-3 ショート : USB2 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。



(6). 前面パネルのスイッチとインジケータ接続

このヘッダは、スイッチと LED インジケータをシャーシ前面パネルに接続するために使用されます。

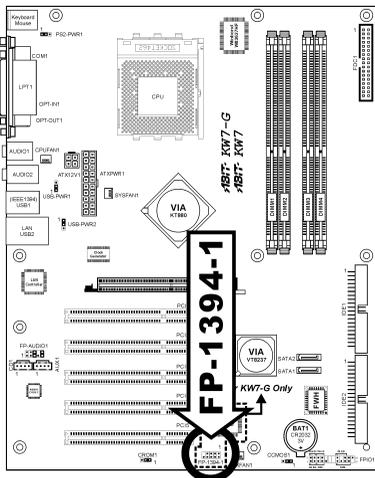
電源 LED のピン位置と方向に注してください。下図のピンに一直線に並んでいる“+”のマークは、LED 接続のプラス極を表します。これらのヘッダに間違いなく接続してください。方向を逆に接続しても LED が点灯しないだけのことで、スイッチの間違った接続はシステムの故障の原因となることがあります。



- **HLED (ピン 1、3) :**
シャーシ前面パネルの HDD LED ケーブルに接続します。
- **RST (ピン 5、7) :**
シャーシ前面パネルのリセットスイッチケーブルに接続します。
- **SPK (ピン 15、17、19、21) :**
シャーシのシステムスピーカケーブルに接続します。
- **SLED (ピン 2、4) :**
シャーシ前面パネルのサスペンド LED ケーブル (もしあれば) に接続します。
- **PWR-ON (ピン 6、8) :**
シャーシフロントパネルの電源スイッチケーブルに接続します。
- **PLED (ピン 16、18、20) :**
シャーシフロントパネルの電源 LED ケーブルに接続します。

(7). 追加 IEEE1394 ポートヘッダ

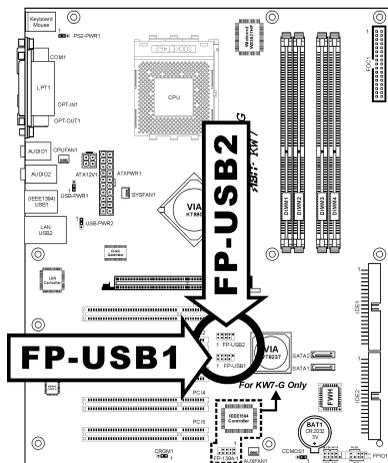
これらのヘッダは延長ケーブルとブラケットを通して、それぞれ 1 つの追加 IEEE1394 ポートを提供します。



	ピン番号	ピン割り当て	ピン番号	ピン割り当て
<p>7 5 3 1 10 8 6 4 2 FP-1394-1</p>	1	TPA0 +	2	TPA0 -
	3	アース	4	アース
	5	TPB0 +	6	TPB0 -
	7	+12V	8	+12V
	9	NC	10	アース

(8). 追加 USB ポートヘッダ

これらのヘッダはそれぞれ、USB 2.0 仕様に対して設計された USB ケーブルを通して、2つの追加 USB 2.0 ポート接続を提供します。

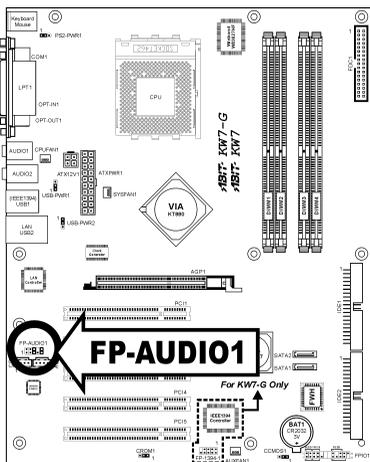


	ピン	割り当て	ピン	割り当て
<p>FP-USB1 FP-USB2</p>	1	VCC	2	VCC
	3	Data0 -	4	Data1 -
	5	Data0 +	6	Data1 +
	7	アース	8	アース
	9	NC	10	NC

(9). 前面パネルのオーディオ接続ヘッダ

このヘッダは、フロントパネルでのオーディオコネクタに接続を提供します。

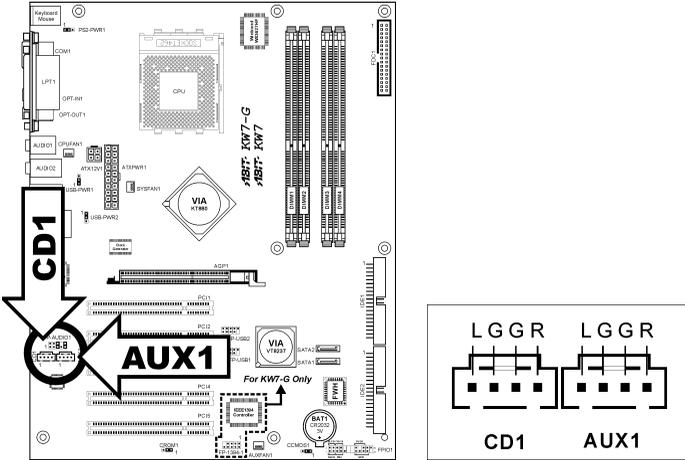
- 前面パネルでオーディオコネクタを使用するには、このヘッダのすべてのジャンパを取り外し、シャーシに付属する延長ケーブルで前面パネルに接続します。
- 背面パネルでオーディオコネクタを使用するには、延長ケーブルを抜き、ピン 5-6、およびピン 9-10 のジャンパを元に戻します (デフォルト設定)。



	ピン	割り当て	ピン	割り当て
<p>FP-AUDIO1</p>	1	オーディオ Mic.	2	アース
	3	オーディオ Mic.パイアス	4	VCC
	5	スピーカーアウトの右チャンネル	6	スピーカーアウトの右チャンネルリターン
	7	X	8	NC
	9	スピーカーアウトの左チャンネル	10	スピーカーアウトの左チャンネルリターン

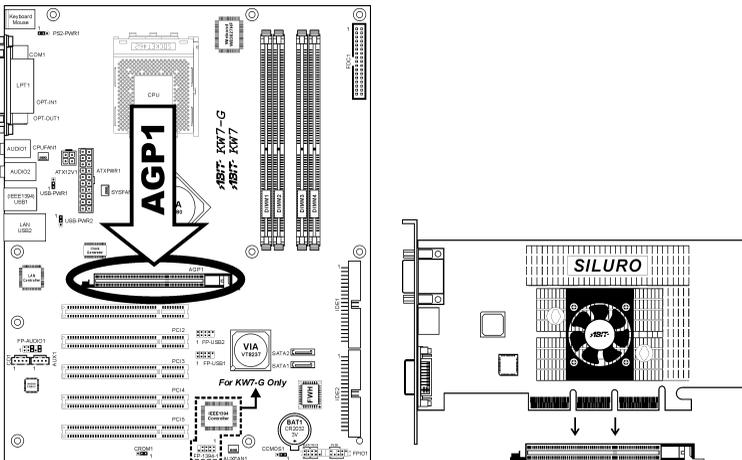
(10). 内部オーディオコネクタ

これらのコネクタは、内部 CD-ROM ドライブまたはアドオンカードのオーディオ出力に接続します。



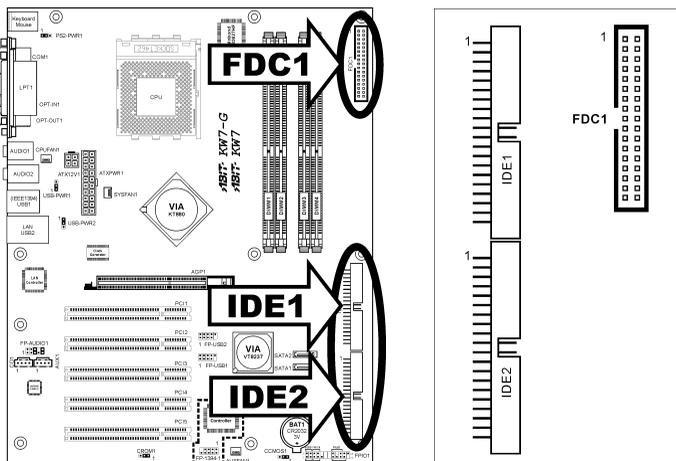
(11). 加速式グラフィックスポートスロット

このスロットは、AGP 8X までオプションの AGP グラフィックスカードをサポートします。グラフィックスカードの詳細については、当社の Web サイトを参照してください。



注意：このマザーボードは 3.3V AGP カードをサポートしません。1.5V または 0.8V AGP カードのみをご使用下さい。

(12). フロッピーと IDE ディスクドライブコネクタ

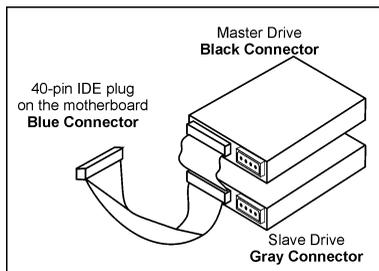


FDC1 コネクタは 34 ワイヤ、2 コネクタフロッピーケーブルで最大 2 つのフロッピードライブを接続することができます。リボンケーブルの長い方にある 1 つのコネクタをボードの FDC1 に接続し、もう片方の 2 つのコネクタをフロッピーディスクドライブに接続してください。通常、システムに必要なフロッピーディスクドライブは 1 つだけです。

注: リボンケーブルの赤い線は FDC1 ポートとフロッピーコネクタの両方のピン 1 に合わせる必要があります。

各 IDE ポートコネクタには、40 ピン、80 コンダクタ、3 コネクタの Ultra ATA/66 リボンケーブルを使って Ultra ATA/100 モードで最大 2 つの IDE ドライブを接続することができます。

リボンケーブルの長い方の端 (青いコネクタ) をこのボードの IDE ポートに接続し、短い方の端に付いた 2 つのコネクタ (灰色と黒のコネクタ) をハードドライブのコネクタに接続してください。

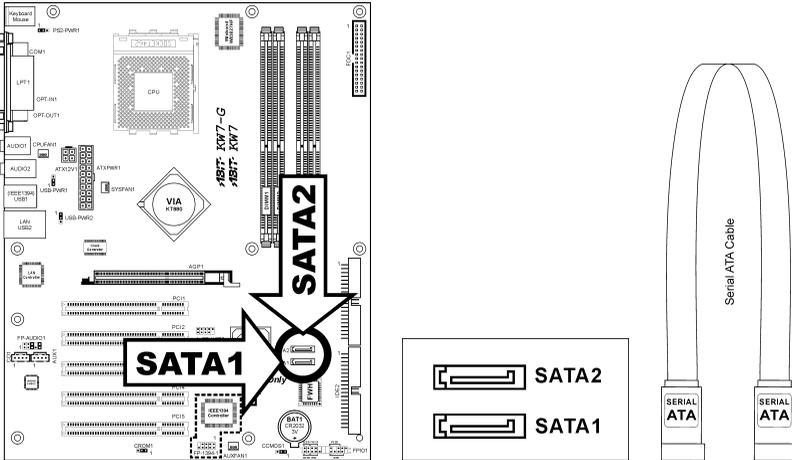


注: リボンケーブルで 2 つのドライブを接続する前に、"Master" と "Slave" 関係を設定してください。リボンケーブルの赤い線は IDE ポートとハードドライブコネクタの両方のピン 1 に合わせる必要があります。

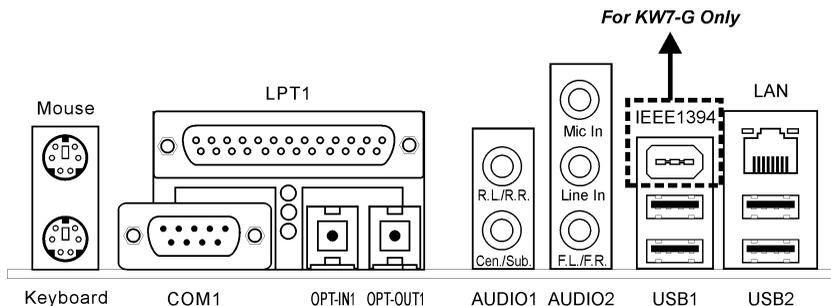
(13). シリアルATA コネクタ

これらのコネクタは、Serial ATA ケーブル経由で各チャンネル毎に1つの Serial ATA デバイスを接続するために用意されています。ソフトウェア構成によって RAID 0 または RAID 1 のアレイも利用できます。

SATA1 および SATA2 のコントローラを有効にするには、「OnChip IDE デバイス」の BIOS メニューで「OnChip SATA デバイス」を有効 (初期設定) にしておく必要があります。



(14). 背面パネルの接続



- **マウス** : PS/2 マウスに接続します。
- **キーボード** : PS/2 キーボードに接続します。
- **LPT1** : この通信プロトコルをサポートするプリンタやその他のデバイスに接続します。
- **COM1** : この通信プロトコルをサポートする外部モデム、マウスまたはその他のデバイスに接続します。
- **OPT-IN1** : このコネクタは、光ファイバを通してデジタルマルチメディアデバイスへの S/PDIF イン接続を提供します。
- **OPT-OUT1** : このコネクタは、光ファイバを通してデジタルマルチメディアデバイスへの S/PDIF アウト接続を提供します。
- **AUDIO1** :
R.L./R.R. (背面左 / 背面右) : 5.1 チャンルのオーディオシステムの背面左および背面右チャンネルに接続します。
Cen./Sub. (センター / サブウーファ) : 5.1 チャンルのオーディオシステムのセンターおよびサブウーファチャンネルに接続します。
- **AUDIO2** :
Mic In : 外部マイクからプラグに接続します。
Line In : 外部オーディオソースからラインアウトに接続します。
Line Out : 5.1 チャンルまたは通常の 2 チャンルオーディオシステムの前面左と前面右チャンネルに接続します。
- **IEEE1394** : IEEE1394 プロトコルのデバイスに接続します。 (**KW7-G**)
- **LAN** : 構内通信網 (LAN) に接続します。
- **USB1/USB2** : スキャナ、デジタルスピーカー、モニター、マウス、キーボード、ハブ、デジタルカメラ、ジョイスティックなどの USB デバイスに接続します。



第3章 BIOS について

このマザーボードはプログラム可能な EEPROM を提供し、BIOS ユーティリティを更新することができます。BIOS (基本入出力システム)はプロセッサと周辺装置の間で通信の基本レベルを処理するプログラムです。マザーボードを取り付けたり、システムを再構成したり、“セットアップの実行”を指示するときだけに、BIOS セットアッププログラムを使用します。本章では、BIOS ユーティリティのセットアップユーティリティを説明します。

システムの電源をオンにすると、BIOS メッセージが画面に表示され、メモリがカウントを開始し、次のメッセージが画面に表示されます。

PRESS DEL TO ENTER SETUP

応答する前にメッセージが消えたら、<Ctrl>+<Alt>+キーを押すか、コンピュータシャーシのリセットボタンを押してシステムを再起動します。これらの2つの方法が失敗した場合のみ、電源をオフにした後またオンにしてシステムを再起動することができます。

キーを押した後、メインメニュー画面が表示されます。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility	
<ul style="list-style-type: none"> ▶ SoftMenu Setup ▶ Standard CMOS Features ▶ Advanced BIOS Features ▶ Advanced Chipset Features ▶ Integrated Peripherals ▶ Power Management Setup ▶ PnP/PCI Configurations 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ PC Health Status Load Fail-Safe Defaults Load Optimized Defaults Set Password Save & Exit Setup Exit Without Saving
Esc : Quit	↑ ↓ → ← : Select Item
F10 : Save & Exit Setup	(KT880-8237-6A7L3A1AC-00)
Change CPU's Clock & Voltage	

注：システムの安定性と性能を高めるために、当社の技術陣が BIOS メニューを絶えず改良しています。BIOS セットアップ画面と本書で示した説明は参照のためのもので、画面に表示されるものと完全に一致しないこともあります。

3-1. SoftMenu Setup

SoftMenu ユーティリティは、CPU の動作速度プログラムするための ABIT の独占的で究極のソリューションです。CPU FSB 速度、マルチプライヤファクタ、AGP & PCI クロック、CPU コア電圧に関する全てのパラメータはワンタッチで操作することができます。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
SoftMenu Setup		
		Item Help
CPU Name	AMD Athlon(tm) XP	
Model Name	2500+	
CPU Operating Speed	[CPU Default]	
X - CPU FSB Clock(MHz)	166MHz	
- Ratio (FSB:AGP:PCI)	5:2:1	
- Multiplier Factor	X 11	
Power Supply	[Default]	
X - CPU Core Voltage	By CPU	
X - DDR Voltage	2.65V	
X - Chipset Voltage	1.60V	
CPU Fast Command Decode	[Normal]	
Disable Unused PCI Clock	[Enabled]	
Spread Spectrum	[Disable]	
↑ ↓ : Move Enter : Select +/- /PU/PD : Value F10 : Save ESC : Exit F1 : General Help F5 : Previous Values F6 : Fail-Safe Defaults F7 : Optimized Defaults		

CPU Name:

このアイテムは CPU 名を表示します。

Model Name:

このアイテムは CPU モデル名を表示します。

CPU Operating Speed:

このアイテムは、お使いの CPU のタイプと速度に従って CPU のオペレーティング速度を表示します。[User Define] (ユーザー定義) オプションを選択すると、マニュアルオプションに入ることができます。

* CPU FSB Clock (MHz):

このアイテムは、CPU フロントサイドバスの速度を設定します。取り付けた CPU の仕様制限によって、その標準のバス速度を超えて設定した速度はサポートされませんが、保証はされません。

* Ratio (FSB:AGP:PCI):

このアイテムは FSB、AGP、PCI のクロック間の比率を表示します。4:2:1 の比率を例に上げます。FSB クロックが 133MHz (133 x 4/4) の場合、AGP クロックは 66MHz (133 x 2/4) になり、PCI クロックは 33MHz (133 x 1/4) になります。

*** Multiplier Factor:**

このアイテムは、取り付けた CPU の乗数を表示します。

Power Supply:

このオプションによって、CPU デフォルトとユーザー定義の電圧を切り替えることができます。この設定は、現在の CPU タイプと電圧設定を検出できない場合、または正しくない場合を除き、デフォルトのままにしておいてください。オプション「**ユーザー定義**」では、コア電圧を手動で選択できます。

*** CPU Core Voltage:**

このアイテムは、CPU のコア電圧を選択します。

注意: 間違った電圧設定を行うと、システムが不安定になったり、CPU が損傷することさえあります。その結果を十分掌握していない限り、デフォルトの設定のままにしておいてください。

DDR Voltage:

このアイテムは、DRAM の電圧を選択します。

Chipset Voltage:

このアイテムは、NB Core の電圧を選択します。

CPU Fast Command Decode (CPU 高速コマンドデコード):

次の3つのオプションが指定できます: at Normal (標準で) → to Fast or at Fast (高速にまたは高速で) → to Normal (標準に)。これは、ユーザーがどんな状態を選択しているかに依存します。このアイテムを“at Fast (高速で)”から“to Normal (標準に)”に設定すると、システムを再ブートして POST プロセスを終了するとき、状態は新しい設定に変わります (ここでは、to Normal)。その後、BIOS メニューを再び表示すると、このアイテムは“at Normal (標準で)”を表示し、<Enter>キーを押すと、3つのオプション: at Normal (標準で) → to Fast (高速に) を表示し、デフォルトの設定が at Normal (標準で) になります。このアイテムを“at Normal (標準で)”から“to Fast (高速に)”に設定し、前に述べた手順を同じように実行すると、このアイテムは“at Fast (高速で)”を表示し、<Enter>キーを押すと、3つのオプション: at Fast (高速で) → to Normal (標準に) を表示し、デフォルトの設定が at Fast (高速で) になります。CPU デコードアドレスが高速または標準の速度になっている場合、アイテムを選択することができます。最大の安定性を得るには、to Normal (標準に) を選択するようにお勧めします。性能を向上させたい場合は、to Fast (高速に) を選択することができます。メインボードの“CROM1”と呼ばれるジャンパをピン1およびピン2 ショートに設定すると、このアイテムがこのメニューに表示されます。

Disable Unused PCI Clock:

このオプションは、使用されていない PCI スロットのクロックを使用不可能にします。

[Enabled]: システムは未使用の DIMM と PCI スロットを自動的に検出し、これらの未使用 PCI スロットへのクロック信号の送信を停止します。

[Disabled]: システムはすべての PCI スロットにクロック信号をたえず送信します。

注：システムが自動的に検出できないアダプタがある場合、このオプションを[Disabled]に設定すると、誤動作の原因となります。

Spread Spectrum:

Disabled か Enabled のいずれかを選択できます。デフォルトは Disabled です。EMC (Electro-Magnetic Compatibility Test) テストには、最適な結果が得られるようにこれらのオプションを調整してください。特別な理由がない限り、この機能はデフォルトのままにしておいてください。

3-2. Standard CMOS Features

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Standard CMOS Features		
Date (mm:dd:yy)	Sun. Aug 22 2004	Item Help
Time (hh:mm:ss)	12 : 34 : 56	
▶ IDE Primary Master	[None]	
▶ IDE Primary Slave	[None]	
▶ IDE Secondary Master	[None]	
▶ IDE Secondary Slave	[None]	
Drive A	[1.44M, 3.5 in.]	
Drive B	[None]	
Video	[EGA/VGA]	
Halt On	[All, But keyboard]	
Base Memory	640K	
Extended Memory	1046520K	
Total Memory	1047552K	
↑ ↓ : Move Enter: Select +/- /PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

Date (mm:dd:yy):

このアイテムは[月]、[日]、[年]の形式で指定する日付（通常、現在の日）を設定します。

Time (hh:mm:ss):

このアイテムは[時]、[分]、[秒]の形式で指定する日付（通常、現在の時間）を設定します。

☞ IDE Primary Master/Slave、IDE Secondary Master/Slave:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		Item Help
IDE Primary Master		
IDE HDD Auto-Detection	[Press Enter]	
IDE Primary Master	[Auto]	
- Access Mode	[Auto]	
Capacity	0 MB	
Cylinder	0	
Head	0	
Precomp	0	
Landing Zone	0	
Sector	0	
↑ ↓:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

IDE HDD Auto-Detection:

このアイテムでは、<Enter> キーを押すことによって IDE ドライブのパラメータを検出できるようになっています。パラメータが画面上に自動的に表示されます。

IDE Primary Master/Slave、IDE Secondary Master/Slave:

[Auto] (自動) に設定すると、BIOS はどの種類の IDE ドライブを使用しているかを自動的にチェックします。自分でドライブを定義したい場合、これを[Manual] (マニュアル) に設定し、パラメータの意味を完全に理解していることを確認してください。正しい設定を得るには、デバイスメーカーが提供する使用説明書を参照してください。

Access Mode:

このアイテムはお使いの IDE デバイスにアクセスするモードを選択します。このアイテムをデフォルトの [Auto] (自動) 設定のままにしておくと、HDD のアクセスモードを自動的に検出します。

Capacity:

このアイテムはディスクドライブのおおよその容量を表示します。一般に、サイズはディスクチェックプログラムに示されるフォーマット済みディスクのサイズよりいくらか大きくなります。

Cylinder:

このアイテムはシリンダの数を構成します。

Head:

このアイテムは読込/書込ヘッドの数を構成します。

Precomp:

このアイテムは、書込タイミングを変更するシリンダの数を表示します。

Landing Zone:

このアイテムは、読取り/書込みヘッド用のランディングゾーンとして指定されるシリンダの番号を表示します。

Sector:

このアイテムは、トラック当りのセクタの数を構成します。

☞ Standard CMOS Features Setup Menu に戻ります :

Drive A & Drive B:

このアイテムは取り付けられたフロッピードライブ（通常、ドライブ A のみ）のタイプを設定します。

Video:

このアイテムは、一次システム監視で使用されるビデオアダプタのタイプを選択します。

[EGA/VGA]: (Enhanced Graphics Adapter/Video Graphics Array) EGA、VGA、SVGA、PGA モニタアダプタの場合。

[CGA 40]: (Color Graphics Adapter) 40 カラムモードで駆動。

[CGA 80]: (Color Graphics Adapter) 80 カラムモードで駆動。

[Mono]: (Monochrome adapter) 高解像度のモノクロームアダプタを組み込み。

Halt On:

このアイテムは、システムの起動中にエラーが検出された場合、システムを停止するかどうかを決定します。

[All Errors]: システムブートは、BIOS が致命的でないエラーを検出すると必ず停止します。

[No Errors]: システムブートは、エラーを検出すると停止します。

[All, But Keyboard]: システムブートは、キーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Diskette]: システムブートは、ディスクエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Disk/Key]: システムブートは、ディスクまたはキーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

Base Memory:

このアイテムは、システムにインストールされた基本メモリの量を表示します。基本メモリの値は 640K を搭載したシステムの場合一般的には 640K ですが、マザーボードにさらに多くのメモリサイズをインストールすることもできます。

Extended Memory:

このアイテムは、システムの起動中に検出された拡張メモリの量を表示します。

Total Memory:

このアイテムは、システムで利用できる総メモリを表示します。

3-3. Advanced BIOS Features

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Advanced BIOS Features		
		Item Help
▶ Hard Disk Boot Priority	[Press Enter]	
First Boot Device	[Floppy]	
Second Boot Device	[Hard Disk]	
Third Boot Device	[CDROM]	
Boot Other Device	[Enabled]	
Swap Floppy Drive	[Disabled]	
Boot Up NumLock Status	[On]	
Typematic Rate Setting	[Enabled]	
Typematic Rate (Char/Sec)	[30]	
Typematic Delay (Msec)	[250]	
Security Option	[Setup]	
APIC Mode	[Enabled]	
- MPS Version Ctrl For OS	[1.4]	
OS Select For DRAM > 64MB	[Non-OS2]	
Report No FDD For OS	[Disabled]	
↑ ↓ : Move Enter : Select +/- /PU/PD : Value F10 : Save ESC : Exit F1 : General Help F5 : Previous Values F6 : Fail-Safe Defaults F7 : Optimized Defaults		

Hard Disk Boot Priority:

このアイテムは、ハードディスクのブート優先順位を選択します。<Enter>キーを押すことによって、そのサブメニューに入り、ここで検出されたハードディスクをシステム起動のためのブートシーケンス用を選択することができます。

このアイテムは、1次/2次/3次ブートデバイスアイテムのどれかに[ハードディスク]のオプションがあるときのみ機能します。

First Boot Device / Second Boot Device / Third Boot Device / Boot Other Device:

[First Boot Device] (第1ブートデバイス)、[Second Boot Device] (第2ブートデバイス)、[Third Boot Device] (第3ブートデバイス) アイテムでそれぞれ起動する第1、第2、第3ドライブを選択します。BIOSは選択したドライブのシーケンスに従ってオペレーティングシステムを起動します。以上の3つのアイテム以外のデバイスから起動したい場合は、[他のデバイスを起動]を[Enabled] (使用可能) に設定してください。

Swap Floppy Drive:

[Enabled] (使用可能) に設定しているときに、システムをフロッピードライブから起動すると、システムは通常のドライブAの代わりにドライブBから起動します。この機能を使用するには、システムに2基のフロッピードライブを接続している必要があります。

Boot Up NumLock Status:

このアイテムは、システムが起動するときの数値キーボードのデフォルトの状態を決定します。

[On] : 数字キーとしての数値キーパッド機能。

[Off] : 矢印キーとしての数値キーパッド機能。

Typematic Rate Setting:

このアイテムではキーストロークのリピート速度を設定できます。Enabled（使用する）を選択すると、キーボードに関する以下の2つのタイプマティック制御（Typematic Rate と Typematic Rate Delay）を選択できます。このアイテムを Disabled（使用しない）にすると、BIOS はデフォルト設定を使用します。初期値設定は **Enabled** です。

Typematic Rate (Chars/Sec):

キーを押しつづけると、キーボードは設定速度（単位：キャラクタ/秒）に従ってキーストロークをリピートします。8つのオプションが指定できます：6 → 8 → 10 → 12 → 15 → 20 → 24 → 30 → 6に戻る。初期値設定は **30** です。

Typematic Delay (Msec):

ここで設定した時間以上にキーを押しつづけていると、キーボードは一定の速度（単位：ms）でキーストロークを自動的にリピートします。4つのオプションが指定できます：250 → 500 → 750 → 1000 → 250に戻る。初期値設定は **250** です。

Security Option:

このアイテムは、システムがパスワードを要求するとき – システムが起動するたびか、または BIOS セットアップに入るときのみかを決定します。

[Setup] : パスワードは BIOS セットアップにアクセスするときのみ要求されます。

[System] : パスワードはコンピュータが起動するたびに要求されます。

注 : パスワードは忘れないでください。パスワードを忘れた場合、コンピュータのケースを開けて、CMOS のすべての情報をクリアにしてからシステムを起動してください。この場合、以前に設定したすべてのオプションはリセットされます。

APIC Mode:

このアイテムは APIC モードの有効/無効を切り替えます。

MPS Version Ctrl For OS:

この項目は、このマザーボードが使用する MPS（多重プロセッサ仕様）のバージョンを指定します。オプションは 1.1 と 1.4 です。デフォルトの設定は **1.4** です。デュアルプロセッサを実行するために古い OS を使用する場合、このオプションを 1.1 に設定してください。

OS Select For DRAM > 64MB:

このアイテムにより、OS/2 で 64MB 以上のメモリにアクセスできます。OS/2 以外のオペレーティングシステムの場合、このアイテムをデフォルトの[非 OS2]設定のままにしておいてください。

Report No FDD For OS:

[Enabled] (使用可能) に設定すると、このアイテムによりフロッピーディスクドライブがなくても一部の古いオペレーティングシステムを実行できます。

3-4. Advanced Chipset Features

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Advanced Chipset Features		
		Item Help
▶ DRAM Clock/Drive Control	[Press Enter]	
▶ AGP & P2P Bridge Control	[Press Enter]	
▶ CPU & PCI Bus Control	[Press Enter]	
Memory Hole At 15-16M	[Disabled]	
Top Performance	[Disabled]	
↑ ↓ : Move Enter : Select +/- /PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

☞ DRAM Clock/Drive Control:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		Item Help
DRAM Clock/Drive Control		
Current FSB Frequency	166 MHz	
Current DRAM Frequency	133 MHz	
DRAM Clock	[By SPD]	
DRAM Timing Selectable	[By SPD]	
X - CAS Latency Time	2.5	
X - Bank Interleave	Disabled	
X - Precharge to Act. (Trp)	4T	
X - Act. To Precharge (Tras)	9T	
X - Active to CMD (Trcd)	4T	
X - Ref to Active (Trfc)	15T	
X - Active to Active (Trrd)	2T	
DRAM BUS Selection	[Auto]	
DRAM Command Rate	[2T Command]	
DDR DQS Input Delay	[Auto]	
X - DQS Input Delay Value	18/14 (GrayCode)	
DDR DQS Output Delay	[Auto]	
X - Ch. A DQS Output Delay	5E/71 (GrayCode)	
X - Ch. B DQS Output Delay	87/C4 (GrayCode)	
X - Ch. A MD Output Delay	8D/CB (GrayCode)	
X - Ch. B MD Output Delay	64/56 (GrayCode)	
DQS/DQM/CS/CKE/Max Drive	[Auto]	
X - RxE0 Ch. A DQS Drive	75	
X - RxE1 Ch. B DQS Drive	00	
X - RxE2 Ch. A DQM Drive	65	
X - RxE3 Ch. B DQM Drive	00	
X - RxE4 Ch. A CS/CKE Drive	98	
X - RxE5 Ch. A CS/CKE Drive	00	
X - RxE8 MAA Drive	A9	
X - RxEA MAB Drive	A9	
DQS Input Delay	[Auto]	
X Rx7C DIMM0	00	
X Rx7D DIMM1	00	
X Rx7E DIMM2	00	
X Rx7F DIMM3	00	
Prefetch Controller	[Enabled]	
S2K series control	[Auto]	
X Rx8C S2K DICLK delay	A0	
X Rx8D S2K duty cycle adju	00	
X Rx8E S2K duty cycle adju	C0	
X Rx8F S2K duty cycle adju	00	
↑ ↓ : Move Enter : Select +/- /PU/PD : Value F10 : Save ESC : Exit F1 : General Help		
F5 : Previous Values F6 : Fail-Safe Defaults F7 : Optimized Defaults		

Current FSB Frequency:

この項目は、現在のシステムの前方バス速度を表示します。

Current DRAM Frequency:

この項目は、現在の DRAM バス速度を表示します。

DRAM Clock:

このアイテムは、DRAM モジュールの DRAM クロックを設定します。DRAM モジュールが設定したクロックをサポートしないと、システムは不安定になるか、起動できなくなります。

[SPD による]に設定すると、BIOS は DRAM モジュールの SPD データを読み込んで、格納されている値によって DRAM クロックを自動的に設定します。

DRAM Timing Selectable:

4 つのオプション、Manual (手動) → By SPD → Turbo → Ultra を使用することができます。デフォルトの設定は *By SPD* です。By SPD に設定すると、BIOS は DRAM モジュール SPD データを読み取り、保存されている値を自動的に設定します。オプション [手動] を選択することにより、次のアイテムを利用して調整を行うことができます。

- ※ CAS Latency Time
- ※ Bank Interleave
- ※ Precharge to Act. (Trp)
- ※ Act. to Precharge (Tras)
- ※ Active to CMD (Trcd)
- ※ Ref to Active (Trfc)
- ※ Active to Active (Trrd)

DRAM Bus Selection:

このアイテムは[シングル]、[デュアル]、[自動] 間でメモリチャンネルを選択します。

DRAM Command Rate:

2 つのオプション、2T コマンドまたは 1T コマンドを使用することができます。デフォルトの設定は 2T コマンドです。ホスト (ノースブリッジ) が希望するメモリアドレスを配置するとき、コマンドの待ち状態を処理します。システム互換性を実現するためにこれを「2T コマンド」に、またはシステム性能を向上させるために「1T コマンド」に設定します。

DDR DQS Input Delay:

2 つのオプション、Auto (自動) または Manual (手動) を使用することができます。デフォルトの設定は「自動」です。「手動」に設定すると、次の項目を使用することができます。

- ※ DQS Input Delay Value:

この項目により、メモリのデータ出力ストロブ遅延時間を調整することができます。このセクションに HEX 番号を打ち込むことができます。

DDR DOS Output Delay:

[自動] または [手動] の、2 つのオプションが利用できます。オプション [手動] を選択することにより、次のアイテムを利用して調整を行うことができます。

- * Ch. A DQS Output Delay
- * Ch. B DQS Output Delay
- * Ch. A MD Output Delay
- * Ch. B MD Output Delay

DQS/DQM/CS/CKE/MAX Drive:

[自動] または [手動] の、2 つのオプションが利用できます。オプション [手動] を選択することにより、次のアイテムを利用して調整を行うことができます。

- * RxE0 Ch. A DQS Drive
- * RxE1 Ch. B DQS Drive
- * RxE2 Ch. A DQM Drive
- * RxE3 Ch. B DQM Drive
- * RxE4 Ch. A CS/CKE Drive
- * RxE5 Ch. A CS/CKE Drive
- * RxE8 MAA Drive
- * RxEA MAB Drive

DQS Input Delay:

[自動] または [手動] の、2 つのオプションが利用できます。オプション [手動] を選択することにより、次のアイテムを利用して調整を行うことができます。

- * Rx7C DIMM0
- * Rx7D DIMM1
- * Rx7E DIMM2
- * Rx7F DIMM3

Prefetch Controller:

このアイテムは先取りコントローラの有効/無効を切り替えます。

S2K series control:

[自動] または [手動] の、2 つのオプションが利用できます。オプション [手動] を選択することにより、次のアイテムを利用して調整を行うことができます。

- * Rx8C S2K DICKL delay
- * Rx8D S2K duty cycle adju
- * Rx8E S2K duty cycle adju
- * Rx8F S2K duty cycle adju

AGP & P2P Bridge Control:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
AGP & P2P Bridge Control		
		Item Help
CPU to AGP Post Write	[Enabled]	
AGP Aperture Size	[128M]	
AGP 2.0 Mode	[4X]	
AGP Driving Control	[Auto]	
X AGP Driving Value	DA	
AGP Fast Write	[Disabled]	
AGP Master 1 WS Write	[Disabled]	
AGP Master 1 WS Read	[Disabled]	
X AGP 3.0 Calibration cycle	[Disabled]	

↑ ↓ : Move Enter : Select +/- /PU/PD : Value F10 : Save ESC : Exit F1 : General Help
F5 : Previous Values F6 : Fail-Safe Defaults F7 : Optimized Defaults

CPU to AGP Post Write:

このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

AGP Aperture Size:

このオプションは、AGP デバイスが使用できるシステムメモリの量を指定します。アパチャはグラフィックスメモリアドレススペース用に割り当てられた PCI メモリアドレス範囲の一部です。

AGP 2.0 Mode:

このアイテムにより、AGP デバイスのデータ転送速度を選択できます。速度が高ければ高いほど、システムのグラフィックス速度は高速になり性能も向上します。お使いのグラフィックスカードが選択したモードをサポートすることを確認してください。

AGP Driving Control:

このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

* AGP Driving Value:

このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

AGP Fast Write:

2 つのオプション、Disabled (無効)または Enabled (有効)を使用することができます。デフォルトの設定は *Disabled* です。お使いの AGP アダプタがこの機能をサポートできる場合、「**有効**」を選択することができます。そうでない場合は、「**無効**」を選択します。

AGP Master 1 WS Write:

2 つのオプション、Enabled (有効)または Disabled (無効)を使用することができます。デフォルトの設定は *Disabled* です。このオプションは、AGP バスに書き込んでいるとき単一遅延を実行します。これを「**有効**」に設定するとき、システムにより 2 つの待ち状態が使用され、安定性がさらに増します。

AGP Master 1 WS Read:

2 つのオプション、Enabled (有効)または Disabled (無効)を使用することができます。デフォルトの設定は *Disabled* です。このオプションは、AGP バスを読み込んでいるとき単一遅延を実行します。これを「**有効**」に設定するとき、システムにより 2 つの待ち状態が使用され、安定性がさらに増します。

AGP 3.0 Calibration cycle:

このアイテムは AGP と North Bridge 間の時間周期をコントロールします。AGP 3.0 機能を持つ一部のグラフィックカード使用中に問題が生じた場合は、[Enabled] オプションを試してください。

メモ:このアイテムは AGP 3.0 仕様のグラフィックカードがインストールされている場合にのみ有効です。

↳ Advanced Chipset Features Setup Menu に戻ります:

CPU & PCI Bus Control:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
CPU & PCI Bus Control		
PCI Master 0 WS Write	[Enabled]	Item Help
CPU to PCI Post Write	[Enabled]	
VLink 8x Support	[Enabled]	
PCI Delay Transaction	[Disabled]	
↑ ↓ : Move Enter : Select +/- /PU/PD : Value F10 : Save ESC : Exit F1 : General Help F5 : Previous Values F6 : Fail-Safe Defaults F7 : Optimized Defaults		

PCI Master 0 WS Write :

次の2つのオプションが指定できます: Enabled (使用する) → Disabled (使用しない)。デフォルト設定は Enabled (使用しない) です。Enabled (使用する) に設定されているとき、PCI バスへの書き込みは、PCI がデータ受信の準備ができると (直ちに) ゼロの待ち状態を実行します。Disabled (使用しない) に設定されていると、システムはデータを PCI バスに書き込む前に 1 の待ち状態を実行します。

CPU to PCI Post Write :

次の2つのオプションが指定できます: Disabled (使用しない) → Enabled (使用する)。デフォルト設定は Enabled (使用する) です。Enabled (使用する) に設定しているとき、PCI ポスト書き込みバッファを有効にして、PCI マスター読み込み待ち時間を最小限にします。

VLink 8X Support:

次の2つのオプションが指定できます: Disabled (使用しない) または Enabled (使用する)。デフォルトは Enabled (使用する) です。このアイテムにより、ノースブリッジとサウスブリッジの間で Vlink バスデータ転送が可能になります。

PCI Delay Transaction:

2つのオプション、Disabled (無効) または Enabled (有効) を使用することができます。デフォルトの設定は *Enabled* です。チップセットは 32 ビット Post 書き込みバッファを埋め込み、遅延トランザクションサイクルをサポートします。「**有効**」を選択すると、PCI 仕様バージョン 2.1 に対する準拠をサポートします。

↳ Advanced Chipset Features Setup Menu に戻ります:

Memory Hole At 15M-16M:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、15M-16M のメモリアドレススペースがこの設定を特別に要求する ISA 拡張カード用に予約されます。これにより、システムで利用できない 15MB 以上のメモリが作成されます。このアイテムは、デフォルトの設定のままにしておいてください。

Top Performance:

互換性の問題がなければ、この項目は DRAM パフォーマンスを有効にします。

3-5. Integrated Peripherals

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Integrated Peripherals		
		Item Help
▶ OnChip IDE Device	[Press Enter]	
▶ OnChip PCI Device	[Press Enter]	
▶ SuperIO Device	[Press Enter]	
Init Display First	[PCI Slot]	
Onboard Lan Controller	[Disabled]	
Onboard IEEE1394 Controller	[Disabled]	
PWRON After PWR-Fail	[Off]	
↑↓:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

☞ OnChip IDE Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
OnChip IDE Device		
		Item Help
IDE Prefetch Mode	[Enabled]	
- SATA Mode	[RAID]	
OnChip IDE-1 Controller	[Enabled]	
OnChip IDE-2 Controller	[Enabled]	
↑↓:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

IDE Prefetch Mode:

2つのオプション、無効(Disabled)または有効(Enabled)を使用することができます。デフォルトの設定は無効(Disabled)です。オンボード IDE ドライブインターフェイスは、高速ドライブアクセスを先取りするための IDE 先取りをサポートします。プライマリまたはセカンダリアドイン IDE インターフェイスおよびその両方を取り付ける場合、インターフェイスが先取りをサポートしていない場合、このフィールドを無効(Disabled)に設定してください。

SATA Mode:

この項目は、オンチップシリアル ATA 用のモードを決定します。

[IDE]: オンチップシリアル ATA は IDE モードとして機能します。

[RAID]: オンチップシリアル ATA は RAID モードとして機能します。

OnChip SATA Device:

このオプションは、OnChip SATA コントローラを有効または無効にします。

OnChip IDE-1 Controller / OnChip IDE-1 Controller:

このアイテムにより、一次および二次 IDE コントローラの使用可能/不可能を切り替えることができます。異なるハードドライブコントローラを追加するには、[Disabled] (使用不可能) を選択してください。

OnChip PCI Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
OnChip PCI Device		
		Item Help
OnChip Audio Controller	[Enabled]	
OnChip USB Controller	[All Enabled]	
- USB Device Emulation	[None]	
X - USB Keyboard Support	OS	
X - USB Mouse Support	OS	
- USB 2.0 Controller	[Enabled]	
↑ ↓ : Move Enter : Select +/- /PU/PD : Value F10 : Save ESC : Exit F1 : General Help F5 : Previous Values F6 : Fail-Safe Defaults F7 : Optimized Defaults		

OnChip Audio Controller:

このアイテムはオンボードオーディオコントローラを使用できるようにします。

OnChip USB Controller:

このアイテムはオンボード USB コントローラを使用できるようにします。

* **USB Device Emulation:**

このアイテムはDOS環境でサポートされる [キーボード/マウス],[キーボード/マウス/記憶装置],[なし] のオプションを選択します。

* **USB Keyboard Support:**

このアイテムにより、DOS環境でUSBキーボードを使用するための[BIOS]を、または、またはOS環境では[OS]を選択することができます。

* **USB Mouse Support:**

このアイテムにより、DOS環境でUSBマウスを使用するための[BIOS]を、または、またはOS環境では[OS]を選択することができます。

* **USB 2.0 Controller:**

このアイテムはオンボードUSB 2.0コントローラを使用できるようにします。

↵ **SuperIO Device:**

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
SuperIO Device		
		Item Help
POWER ON Function	[BUTTON ONLY]	
X KB Power ON Password	Enter	
X Hot Key Power ON	Ctrl-F1	
Onboard FDC Controller	[Enabled]	
Onboard Serial Port 1	[3F8/IRQ4]	
Onboard Parallel Port	[378/IRQ7]	
Parallel Port Mode	[SPP]	
X EPP Mode Select	EPP1.7	
X ECP Mode Use DMA	3	
Game Port Address	[210]	
Midi Port Address	[330]	
Midi Port IRQ	[10]	
↑ ↓ : Move Enter : Select +/- /PU/PD : Value F10 : Save ESC : Exit F1 : General Help F5 : Previous Values F6 : Fail-Safe Defaults F7 : Optimized Defaults		

Power On Function:

次の4つの機能が指定できます: Hot Key (ホットキー) → Password (パスワード) → Mouse (マウス) → Button Only (ボタンのみ)。デフォルトは *Button Only (ボタンのみ)* です。このアイテムにより、コンピュータの電源をオンにする方法を選択できます。選択するアイテムに応じて、次のアイテムの一部を利用して詳細設定を行うことができます。例えば、このアイテムを *Password (パスワード)* に設定すると、アイテム“**KB 電源オンパスワード**”によりパスワードを入力することができます。このアイテムを *Hot Key (ホットキー)* に設定すると、アイテム“**ホットキー電源オン**”により希望するホットキーを選択できます。*Mouse (マウス)* を選択すると、マウスの任意のボタンを押してコンピュータの電源をオンにすることができます。

注: この「電源オン」機能を有効にするには、[PS2-PWR1]、[USB-PWR1]、[USB-PWR2]の呼び起こしヘッダを[Enabled (有効)]の位置に設定する必要があります。第2章、2-4項の「呼び起こしヘッダ」[PS2-PWR1]、[USB-PWR1]、[USB-PWR2]の構成を参照してください。

マウスの呼び起こし機能は、COM ポートや USB タイプではなく、PS/2 マウスでのみ使用可能です。一部の PS/2 マウスの中には、互換上の問題が理由で呼び起こしができないものもあります。キーボードの仕様があまりにも古いと、電源をオンにできないことがあります。

*** KB Power ON Password:**

このアイテムは、コンピュータの電源をオンにするために必要なパスワードを設定します。

注: パスワードを忘れないでください。忘れると、この機能を再び利用するには、CMOS を消去して全てのパラメータをリセットしなければなりません。

*** Hot Key Power ON:**

このアイテムは、<Ctrl>キーと機能キー(<F1> ~ <F12>)のどれかを同時に押すことによって、システムの電源をオンにします。

Onboard FDC Controller:

このアイテムはオンボード FDC コントローラを使用できるようにします。Enabled (使用する) または Disabled (使用しない) に設定できます。デフォルトは Enabled です。

Onboard Serial Port 1:

シリアルポート1のI/OアドレスとIRQを指定します。選択可能な値は Disabled → 3F8/IRQ4 → 2F8/IRQ3 → 3E8/IRQ4 → 2E8/IRQ3 → AUTO です。初期値設定は **3F8/IRQ4** です。

Onboard Parallel Port:

このアイテムは、パラレルポートが使用するI/Oアドレスを指定します。

[Disabled]: このオプションは、パラレルポートがシステムリソースに一切アクセスできないようにします。このオプションの値が *使用不可能* に設定されていると、プリンタポートは使用できません。

[378/IRQ7] : このオプションは、パラレルポートがその I/O ポートアドレスとして[378/IRQ7]を使用できるようにします。コンピュータシステムの大多数のパラレルポートは、標準設定として IRQ7 と I/O ポート 378H を使用します。

[278/IRQ5] : このオプションは、パラレルポートがその I/O ポートアドレスとして[278/IRQ5]を使用できるようにします。

[3BC/IRQ7] : このオプションは、パラレルポートがその I/O ポートアドレスとして[3BC/IRQ7]を使用できるようにします。

※ **Parallel Port Mode:**

このアイテムは、パラレルポートのモードを指定します。

[Normal] : 標準のパラレルポートモードを使用できるようにします。

[SPP] : 標準速度での双方向のパラレルポート操作を可能にします。

[EPP] : 最高速度での双方向のパラレルポート操作を可能にします。

[ECP] : 標準モードのデータ転送速度より高速で双方向のパラレルポート操作を可能にします

[ECP+EPP]: ECP と EPP モードでパラレルポート動作を可能にします。

※ **EPP Mode Select:**

このアイテムは EPP モードを選択します。

※ **ECP Mode Use DMA:**

このアイテムは、パラレルポートの DMA チャンネルを選択します。

Game Port Address:

オンボードのゲームポートコネクタのアドレスを設定します。3つのオプションから選択できます : Disabled → 201 → 209。デフォルトは 201 です。

Midi Port Address:

オンボードの MIDI ポートコネクタのアドレスを設定します。3つのオプションから選択できます : Disabled → 330 → 300 → 290。デフォルトは 330 です。

Midi Port IRQ:

オンボードの MIDI ポートコネクタの IRQ を設定します。2つのオプションから選択できます : 5 → 10。デフォルトは 10 です。Midi Port Address を Disabled に設定した場合は、このフィールドは無効となります。

注意

オンボードのオーディオソリューションを新しいオーディオアダプタに交換したい場合は、BIOS で次の 3 つのアイテムを無効にする必要があります。そうしなければ、オーディオアダプタが正常に作動しない場合があります。

AC 97 Audio を Disabled に

Game Port Address を Disabled に

Midi Port Address を Disabled に

↩ Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:**Init Display First:**

このアイテムは、システムが起動するとき AGP または PCI スロットをまず初期化するために選択します。

[AGP]: システムが起動するとき、まず AGP を初期化します。

[PCI Slot]: システムが起動するとき、まず PCI を初期化します。

Onboard Lan Controller:

このアイテムはオンボード LAN コントローラを使用できるようにします。

Onboard IEEE1394 Controller:

このアイテムはオンボード IEEE 1394 コントローラを使用できるようにします。

PWRON After PWR-Fail

このアイテムは、AC 電源に障害が発生した後のシステム動作を選択します。

3-6. Power Management Setup

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		Item Help
Power Management Setup		
ACPI Suspend Type	[S1 (POS)]	
MODEM Use IRQ	[NA]	
Power Button Function	[Instant-Off]	
Run VGABIOS if S3 Resume	[Auto]	
▶ IRQ/Event Activity Detect	[Press Enter]	
↑ ↓ : Move Enter : Select +/- /PU/PD : Value F10 : Save ESC : Exit F1 : General Help F5 : Previous Values F6 : Fail-Safe Defaults F7 : Optimized Defaults		

ACPI Suspend Type:

このアイテムは、サスペンドモードのタイプを選択します。

[S1(POS)] : 電源オンサスペンド機能を使用可能にします。

[S3(STR)] : サスペンド対 RAM 機能を使用可能にします。

MODEM Use IRQ:

IRQ をモデム用に指定できます。8 つのオプションが指定できます : N/A → 3 → 4 → 5 → 7 → 9 → 10 → 11。初期値設定は *N/A* です。

Power Button Function:

このアイテムは、システムの電源をオフにする方法を選択します。

[Delay 4 Sec.]: 電源ボタンを4秒以上長く押し続けていると、システムの電源がオフになります。これにより、電源ボタンにうっかり触れたり押ししたりした場合にシステムの電源がオフになることを防ぐことができます。

[Instant-Off]: 電源ボタンを一度押してから離すと、直ちにシステムの電源がオフになります。

Run VGABIOS if S3 Resume:

次の3つのオプションが指定できます: Auto (自動) → Yes (はい) → No (いいえ)。デフォルトは *Auto* (自動) です。このアイテムにより、いつ S3 レジュームをアクティブにするか、VGA BIOS を開始する必要があるかどうかを選択することができます。

IRQ/Event Activity Detect:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
IRQ/Event Activity Detect		
		Item Help
Power On Function	[Button Only]	
X - Hot Key Power On	Ctrl-F1	
X - KB Power On Password	Press Enter	
X - PS2 Mouse Wakeup	Disabled	
Resume by OnChip USB	[Disabled]	
Wakeup by PME# of PCI	[Disabled]	
Resume by Ring	[Disabled]	
Wakeup by Alarm	[Disabled]	
X - Date (of Month)	0	
X - Resume Time (hh:mm:ss)	0: 0: 0	

↑ ↓ : Move Enter : Select +/- /PU/PD : Value F10 : Save ESC : Exit F1 : General Help
F5 : Previous Values F6 : Fail-Safe Defaults F7 : Optimized Defaults

Power On Function:

次の4つの機能が指定できます: Hot Key (ホットキー) → Password (パスワード) → Mouse (マウス) → Button Only (ボタンのみ)。デフォルトは *Button Only* (ボタンのみ) です。このアイテムにより、コンピュータの電源をオンにする方法を選択できます。選択するアイテムに応じて、次のアイテムの一部を利用して詳細設定を行うことができます。例えば、このアイテムを *Password* (パスワード) に設定すると、アイテム“**KB 電源オンパスワード**”によりパスワードを入力することができます。このアイテムを *Hot Key* (ホットキー) に設定すると、アイテム“**ホットキー電源オン**”により希望するホットキーを選択できます。*Mouse* (マウス) を選択すると、マウスの任意のボタンを押してコンピュータの電源をオンにすることができます。

注: この「電源オン」機能を有効にするには、[PS2-PWR1]、[USB-PWR1]、[USB-PWR2]の呼び起こしヘッダを[Enabled (有効)]の位置に設定する必要があります。第2章、2-4項の「呼び起こしヘッダ」[PS2-PWR1]、[USB-PWR1]、[USB-PWR2]の構成を参照してください。

マウスの呼び起こし機能は、COMポートやUSBタイプではなく、PS/2マウスでのみ使用可能です。一部のPS/2マウスの中には、互換上の問題が理由で呼び起こしができないものもあります。キーボードの仕様があまりにも古いと、電源をオンにできないことがあります。

*** Hot Key Power ON:**

このアイテムは、<Ctrl>キーと機能キー(<F1> ~ <F12>)のどれかを同時に押すことによって、システムの電源をオンにします。

*** KB Power ON Password:**

このアイテムは、コンピュータの電源をオンにするために必要なパスワードを設定します。

注：パスワードを忘れないでください。忘れると、この機能を再び利用するには、CMOS を消去して全てのパラメータをリセットしなければなりません。

*** PS2MS Wakeup:**

この項目は PS2 マウスをコントロールして、電源が切れた状態にあったシステムのウェイクアップ起動を行います。

Resume by OnChip USB:

次の2つのオプションが指定できます: **Disabled** (使用しない) または **Enabled** (使用する)。デフォルトは **Disabled** (使用しない) です。**Enabled** (使用する) に設定すると、オンチップ USB に影響を与えるすべてのイベントは電源がダウンしたシステムを呼び起こします。

WakeUp by PME# of PCI:

[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、モデムや LAN カードなどのオンボード LAN や PCI カードにアクセスすると、システムを呼び起こす原因となります。PCI カードは呼び起こし機能をサポートする必要があります。

Resume By Ring:

次の2つのアイテム、**Disabled** (使用しない) または **Enabled** (使用する) が設定できます。デフォルトは **Disabled** (使用しない) です。**Enabled** (使用する) に設定するとき、モデムリングに影響を及ぼすイベントはパワーダウンしたシステムを呼び起こします。

Wakeup by Alarm:

次の2つのオプションが指定できます: **Disabled** (使用しない) または **Enabled** (使用する)。デフォルトは **Disabled** (使用しない) です。**Enabled** (使用する) に設定すると、RTC (リアルタイムクロック) アラームがサスペンドモードからシステムを呼び起こす日と時間を設定できます。

*** Date (of month)/Resume Time (hh:mm:ss) :**

日付 (月) アラームと時間アラーム (hh:mm:ss) を設定することができます。発生するイベントはすべて、パワーダウンしたシステムを呼び起こします。

3-7. PnP/PCI Configurations

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility PnP/PCI Configurations		Item Help
Resources Controlled By	[Auto]	
x IRQ Resources	Press Enter	
PCI/VGA Palette Snoop	[Disbaled]	
Allocate IRQ to Video	[Enabled]	
Allocate IRQ to USB	[Enabled]	
PIRQ_0 Use IRQ No.	[Auto]	
PIRQ_1 Use IRQ No.	[Auto]	
PIRQ_2 Use IRQ No.	[Auto]	
PIRQ_3 Use IRQ No.	[Auto]	
PIRQ_4 Use IRQ No.	[Auto]	
PIRQ_5 Use IRQ No.	[Auto]	
PIRQ_6 Use IRQ No.	[Auto]	
PIRQ_7 Use IRQ No.	[Auto]	
↑ ↓ : Move Enter : Select +/- /PU/PD : Value F10 : Save ESC : Exit F1 : General Help F5 : Previous Values F6 : Fail-Safe Defaults F7 : Optimized Defaults		

Resources Controlled By:

このアイテムは、全ての起動およびプラグアンドプレイ互換デバイスを構成します。

[Auto(ESCD)]: システムは設定を自動的に検出します。

[Manual]: “IRQ リソース”メニューで、特定の IRQ リソースを選択してください。

* IRQ Resources:

このアイテムは、各システム割り込みを[PCI デバイス] または [予約済み]に設定します。

PCI/VGA Palette Snoop:

このアイテムは、MPEG ISA/VESA VGA カードが PCI/VGA で作動できるかどうかを決定します。

[Enabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは、PCI/VGA で作動できます。

[Disabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは PCI/VGA で作動しません。

Allocate IRQ To Video :

このアイテムは、取り付けた VGA カードの IRQ を割り当てます。

[Yes] : 取り付けた VGA カードの IRQ を自動的に割り当てます。

[No] : VGA カードによって以前に占有された IRQ は、新しいデバイスでも使用できます。

Allocate IRQ To USB

このアイテムは、接続されている USB デバイスに対して IRQ を割り当てます。

[Enabled]: 接続されている USB デバイスに対して IRQ を自動的に割り当てます。

[Disabled]: 接続されている USB デバイスによって以前占有されていた IRQ は、新しいデバイスに対して利用できます。

PIRO 0 Use IRQ No. ~PIRO 7 Use IRQ No.:

このアイテムは、PCI スロットに取り付けたデバイスの IRQ 番号を自動または手動で指定します。

3-8. PC Health Status

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		Item Help
IRQ/Event Activity Detect		
CPU Shutdown Temperature	[Disbaled]	
CPU Warning Temperature	[Disbaled]	
Current System Temp.	0°C/ 32°F	
Current CPU1 Temperature	31°C/ 87°F	
PWM Temperature	39°C/102°F	
CPU FAN Speed	3096 RPM	
AUX FAN Speed	0 RPM	
SYS FAN Speed	0 RPM	
CPU Core Voltage	1.69 V	
DDR Voltage	2.67 V	
ATX +3.3V	3.34 V	
ATX +5V	5.08 V	
ATX +12V	11.97 V	
AGP VDDQ Voltage	1.61 V	
DDR VTT Voltage	1.34 V	
Battery Voltage (+3V)	3.24 V	
Standby Voltage (+5V)	5.06 V	
↑ ↓ : Move Enter: Select +/- /PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

CPU Shutdown Temperature:

このアイテムは、システムが過熱しないようにシステムを自動的に停止する温度を設定します。

CPU Warning Temperature:

このアイテムは、CPU の警告温度の限界を選択します。システムが CPU の温度が限界を超えていることを検出すると、警告音が鳴ります。

注: オンボードハードウェア監視機能は、これらのシステムヘルス状態を検出できます。異常な状態が発生したとき、警告メッセージを表示したり警告アラームを鳴らしたい場合、“ハードウェアドクター”ユーティリティをインストールする必要があります。このユーティリティは本マザーボードに付属する“ドライバとユーティリティ CD”に含まれています。

All Voltages, Fans Speed and Thermal Monitoring:

CPU と環境の温度、ファンの回転速度、システムの電源の電圧を表示します。これらの値は変更できません。

注: 温度、ファンの回転速度、電圧を測定するためのハードウェア監視機能を有効にする場合は、294H から 297H までの I/O アドレスを使用します。ネットワークアダプタ、サウンドカード、またはこれらの I/O アドレスを使用する可能性のあるアドオンカードが装着されている場合は、競合を避けるためにアドオンカードの I/O アドレスを調整してください。

3-9. Load Fail-Safe Defaults

このオプションはデフォルトの BIOS 値をロードして、最も安定した、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3-10. Load Optimized Defaults

このオプションは、出荷時のデフォルトの BIOS 設定をロードして、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3-11. Set Password

このオプションは BIOS 構成を保護したり、コンピュータへのアクセスを制限します。

3-12. Save & Exit Setup

このオプションは選択を保存して BIOS セットアップメニューを終了します。

3-13. Exit Without Saving

このオプションは、変更を保存せずに BIOS セットアップメニューを終了します。



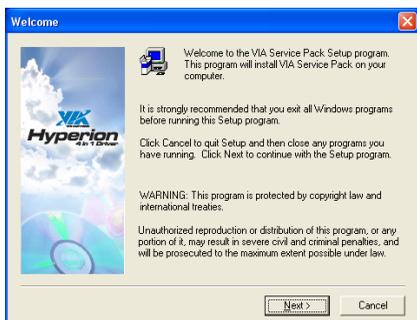
付録 A. VIA 4-in-1 ドライバのインストール

注：Windows オペレーティングシステムをインストールした後、まず VIA 4-in-1 ドライバをインストールしてください。

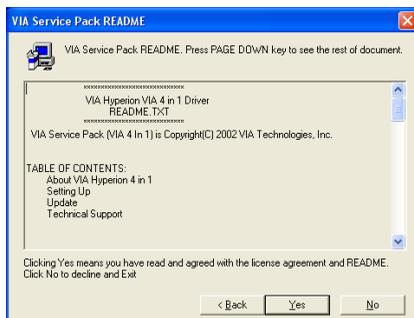
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

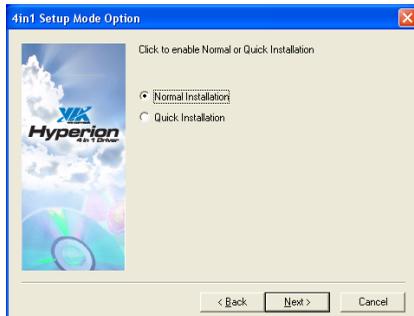
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[VIA 4in1 ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [次へ] をクリックします。



2. [はい] をクリックします。



3. [次へ] をクリックします。



4. [次へ] をクリックします。



5. [次へ] をクリックします。



6. [次へ] をクリックします。



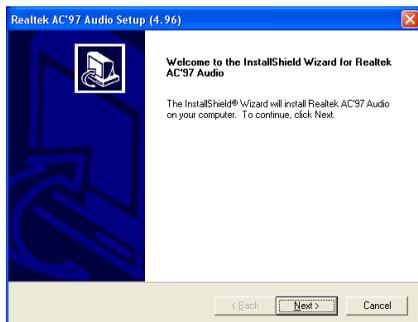
7. [はい、今すぐコンピュータを再起動します] を選択されるようお勧めします。[終了] をクリックしてインストールを終了します。

付録 B. オーディオドライバのインストール

本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[オーディオ ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [次へ] をクリックします。



2. [はい、今コンピュータを再起動します] を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。

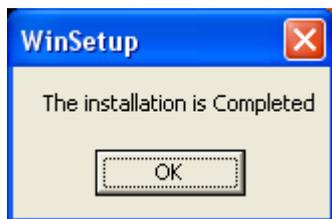


付録 C. LAN ドライバのインストール

本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[LAN ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [OK] をクリックします。



付録 D. VIA USB 2.0 ドライバのインストール

注: Service Pack 1 をすでにインストールしている場合、Windows XP オペレーティングシステムの VIA USB 2.0 ドライバをインストールする必要はありません。Windows update を起動して最新の Service Pack を入手してください。

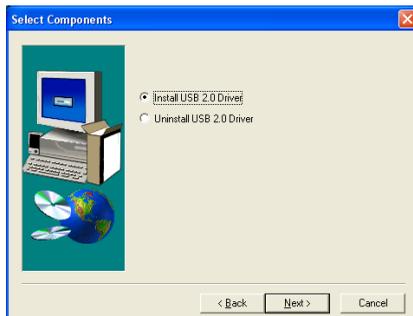
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[VIA USB 2.0 ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



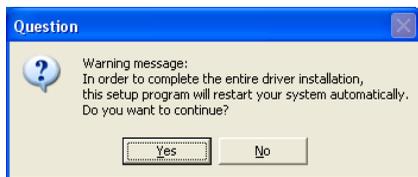
1. [次へ] をクリックします。



2. [次へ] をクリックします。



3. Windows 2000 をインストールしている場合、まず SP4 にアップグレードし、アイテム「VIA USB フィルタドライバのインストール」を選択する必要があります。[次へ] をクリックして続行してください。



4. [はい] をクリックします。

付録 E. シリアルATA RAID ドライバのインストール

本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

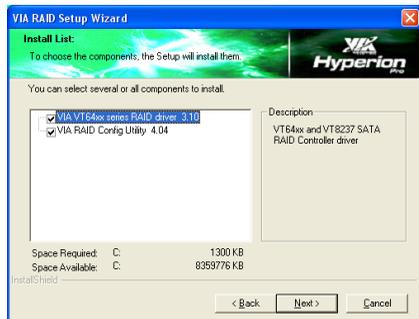
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[VIA SATA RAID ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [次へ] をクリックします。



2. [次へ] をクリックします。



3. [次へ] をクリックします。



4. [次へ] をクリックします。



5. [次へ] をクリックします。



6. [はい、今コンピュータを再起動します] を選択し、[終了]をクリックしてインストーラを終了します。

付録 F. ABIT EQ (Hardware Doctor ユーティリティ)

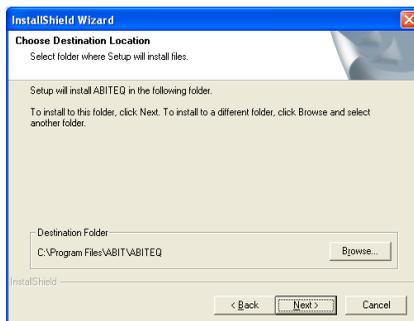
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを[ABIT Utility]タブに移動します。[ABIT EQ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [次へ>] をクリックします。



2. [次へ>] をクリックします。



3. [次へ>] をクリックします。



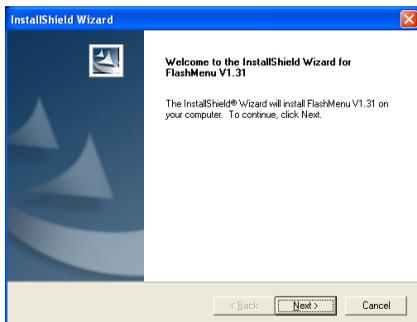
4. [はい、今コンピュータを再起動します] を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。

付録 G. FlashMenu (BIOS 更新ユーティリティ)

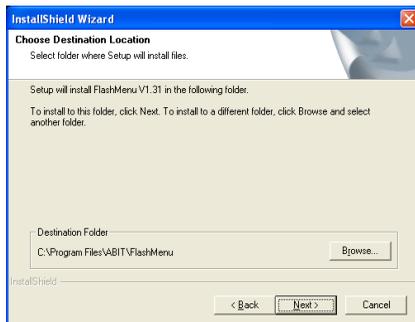
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライブとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを [ABIT Utility] タブに移動します。[FlashMenu] をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [次へ>] をクリックします。



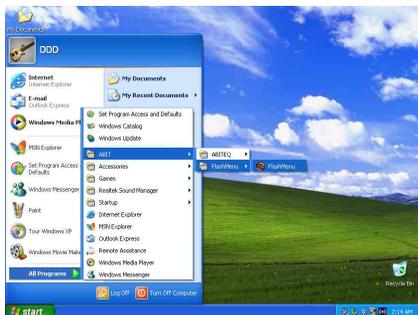
2. [次へ>] をクリックします。



3. [次へ>] をクリックします。



4. [終了] をクリックしてインストールを完了します。



5. Windows ツールバーをポイントしてを FlashMenu 実行し、[スタート] → [プログラム] → [ABIT] → [FlashMenu] を順にクリックします。



6. [OK] をクリックします。



7. このような FlashMenu 画面が表示されます。[Update From File]、[One Click LiveUpdate]、または [LiveUpdate Step by Step] ボタンをクリックして BIOS を簡単に更新することができます。

付録 H. トラブルシューティング

Q & A:

Q: 新しい PC システムを組み立てるときに CMOS をクリアする必要がありますか?

A: はい、新しいマザーボードを装着する際に、CMOS をクリアすることを強くお勧めします。CMOS ジャンパをデフォルトの 1-2 のポジションから 2-3 のポジションに移し、2,3 秒待ち、そして元に戻してください。システムをはじめて起動するとき、ユーザーズマニュアルを参照し、Load Optimized Default を呼び込んでください。

Q: BIOS 更新中にハングアップしてしまったり、間違った CPU パラメータを設定してしまった場合にはどうしたらよいでしょうか?

A: BIOS 更新の失敗や、CPU パラメータ設定間違いによるシステムのハングアップするときは、常に CMOS クリアを行ってサイド起動させてみてください。

Q: BIOS 内部でオーバークロックまたは非標準の設定を試みると、システムを起動できず、画面に何も表示されません。メインボードが故障したのですか? メインボードを販売店に返却する必要がありますか、または RMA プロセスを行うべきですか?

A. 一部の BIOS 設定をデフォルトからオーバークロックまたは非標準の状態に変更しても、ハードウェアまたはメインボードが永久的に損傷する原因とはなりません。当社では、次の 3 つのトラブルシューティングによって CMOS データを放電し、ハードウェアのデフォルトの状態に回復するようにお勧めします。これにより、メインボードが再び機能し、ユーザーの方がわざわざメインボードをお買い上げ時点の設定に戻したり、RMA プロセスを実行する必要はなくなります。

1. 電源装置の電源をオフにし、1 分後に再びオンにします。電源がオンにならない場合、電源コードを抜いて 1 分後に差し込んでください。キーボードの<Insert>キーを押したまま、電源オンボタンを押してシステムを起動します。正常に起動したら、<Insert>キーを離し、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 1 を 3 度繰り返すか、ステップ 2 を試みてください。
2. 電源装置の電源をオフにするか電源コードを抜いて、シャーシを開けます。電池の傍に CCMOS ジャンパがあります。ジャンパ位置をデフォルトの 1-2 から 2-3 に 1 分間変更して CMOS データを放電し、再びデフォルトの 1-2 に戻します。シャーシを閉じ、電源装置の電源をオンにするか、電源コードを差し込みます。電源オンボタンを押して、システムを起動します。正常に起動したら、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って、正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 3 を試みてください。
3. ステップ 2 と同じ手順で、メインボードから ATX 電源コネクタを抜き、CMOS が放電している間にメインボードの電池を取り外します。

Q: テクニカルサポートからの迅速な回答をえるにはどうしたらよいですか?

A: このマニュアルの章にある、テクニカルサポートフォームの記述内容に従って記述してください。

動作に問題がある場合、弊社のテクニカルサポートチームが問題をすばやく特定して適切なアドバイスができるよう、テクニカルサポート用紙には、問題に関係のない周辺機器を記入せず、重要な周辺機器のみを記入してください。記入後は、テクニカルサポートから回答を得られるよう、製品を購入したディーラーまたは販売店に Fax してください（下の例を参照してください）。

例 1： マザーボード（CPU、DRAM、COAST などを含む）、HDD、CD-ROM、FDD、VGA CARD、VGA カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムが起動できない場合、以下の手順に従ってシステムの主なコンポーネントをチェックしてください。最初に、VGA カード以外のすべてのインタフェースカードを取り外して再起動してください。

それでも起動しない場合：

他のブランドまたはモデルの VGA カードをインストールして、システムが起動するかどうかが試してみてください。それでも起動しない場合は、テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）に VGA カードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号、CPU の種類を記入し、「**問題の説明**」欄に問題についての詳しい説明を記入してください。

起動する場合：

取り除いたインタフェースカードを 1 つ 1 つ元に戻しながら、システムが起動しなくなるまでシステムの起動をチェックしてください。VGA カードと問題の原因となったインタフェースカードを残して、その他のカードおよび周辺機器を取り外して、システムを再び起動してください。それでも起動しない場合、「その他のカード」の欄に 2 枚のカードに関する情報を記入してください。なお、マザーボードのモデル名、バージョン、BIOS の ID 番号、CPU の種類（主な注意事項参照）、および問題についての詳しい説明を記入するのを忘れないでください。

例 2： マザーボード（CPU、DRAM、COAST などを含む）、HDD、CD-ROM、FDD、VGA カード、LAN カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムで、サウンドカードのドライバのインストール後、システムを再起動したり、サウンドカードのドライバを実行したりすると自動的にリセットしてしまう場合、問題はサウンドカードのドライバにあるかもしれません。DOS の起動の途中で、SHIFT キーを押して CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT を省略してください。また、テキストエディタで CONFIG.SYS を修正してください。サウンドカードのドライバをロードする行にリマーク REM を追加すると、サウンドカードのドライバを OFF にできます。下の例をご覧ください。

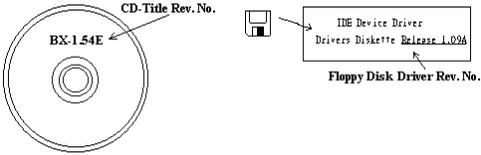
```
CONFIG.SYS:  
DEVICE=C:\DOS\HIMEM.SYS  
DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE HIGHSCAN  
DOS=HIGH, UMB  
FILES=40  
BUFFERS=36  
REM DEVICEHIGH=C:\PLUGPLAY\DWCFMG.SYS  
LASTDRIVE=Z
```

システムを再起動してみてください。システムが起動してリセットしない場合、問題はサウンドカードのドライバにあることがわかります。テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）にサウンドカードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号を記入し、「問題の説明」欄に詳しい説明を記入してください。

テクニカルサポートフォームの記述の仕方について説明します。

主な注意事項...

[テクニカルサポート用紙] に必要事項を記入する場合、次の注意事項を守ってください。

- 1* **モデル名** : ユーザーマニュアルに記されているモデル名を記入します。
例 : KW7, KW7-G
- 2* **マザーボードのモデル番号 (REV)** : マザーボードに [REV:*.**] と記されているマザーボードのモデル番号を記入してください。
例 : REV: 1.00
- 3* **BIOS ID および部品番号** : オンスクリーンのメッセージをご覧ください。
4. **ドライババージョン** : デバイスドライバのディスク (もしあれば) に [Release *.*]**] などと記されているバージョン番号を記入します。

- 5* **OS/アプリケーション** : 使用している OS およびシステムで起動しているアプリケーションを記入します。
例 : MS-DOS® 6.22、Windows® 95、Windows® NT...
- 6* **CPU** : CPU のメーカー名および速度 (MHz) を記入します。
例 : (A) [メーカー名] の欄には [Intel]、[仕様] の欄には [Pentium® 4 1.9GHz] と記入します。
7. **HDD** : HDD のメーカー名、仕様、IDE1 およびIDE2 のどちらで使用しているかを記入します。ディスク容量がわかる場合には容量を記入し、 をチェック (“✓”) してください。チェックがない場合は、IDE1] マスターとみなします。
例 : [HDD] の欄のボックスをチェックし、メーカー名には [Seagate]、仕様の欄には [ST31621A (1.6GB)] と記入します。
8. **CD-ROM ドライブ** : CD-ROM ドライブのメーカー名、仕様、IDE1 およびIDE2 のどちらで使用しているかを記入します。また、“” をチェック (“✓”) してください。チェックがない場合は、“IDE2”マスターとみなします。
例 : “CD-ROM ドライブ” の欄のボックスをチェックし、メーカー名には “Mitsumi”、仕様の欄には “FX-400D” と記入します。
9. **システムメモリ (DDR SDRAM)** : システムメモリのブランドと、密度、説明、モジュールコンポーネント、モジュール部品番号、CAS レイテンシ、速度 (MHz) のような、仕様 (DDR DIMM) を示します。たとえば、ブランドスペースに、「Micron」と記述し、仕様スペースに以下のように記述します。
密度: 128MB、説明: SS 16 Megx72 2.5V ECC ゴールド、モジュールコンポーネント: (9) 16 Megx 8、モジュール部品番号: MT9VDDT1672AG、CAS レイテンシ: 2、速度 (MHz): 200 MHz。
お使いの DDR SDRAM の詳細な情報をお知らせください。発生した問題をシミュレートする上で大いに役に立ちます。
10. **その他のカード** : 問題に関係しているのが “絶対確実である” カードを記入します。
問題の原因が特定できない場合は、システムに搭載しているすべてのカードを記入してください。

注意 : [*] の項目は必ず記入してください。

 テクニカルサポート用紙

 会社名：

 電話番号：

 連絡先：

 ファックス番号：

 E-mail：

モデル名	*	BIOS ID #	*
マザーボードの モデル番号		ドライババージョン	
OS/アプリケーション	*		
ハードウェア名	メーカー名	仕様	
CPU	*		
HDD	<input type="checkbox"/> IDE1 <input type="checkbox"/> IDE2		
CD-ROM ドライブ	<input type="checkbox"/> IDE1 <input type="checkbox"/> IDE2		
システムメモリ (DRAM)			
その他のカード			

問題の説明：

付録 I. テクニカルサポートの受け方について

(ホームページ) <http://www.abit.com.tw>

(米国) <http://www.abit-usa.com>

(ヨーロッパ) <http://www.abit.nl>

ABIT 社の製品をお買い上げいただきありがとうございます。ABIT はディストリビュータ、リセラー、システムインテグレータを通じて製品を販売させていただいておりますため、エンドユーザの皆様へ直接製品を販売することはありません。弊社テクニカルサポート部へお問い合わせいただく前に、お客様のシステムを構築したリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせいただく方が、より適切なアドバイスを受けることができます。

ABIT ではお客様に常に最高のサービスを提供したいと願っております。弊社はお客様への迅速な対応を最優先に考えておりますが、毎日世界各国からの電話や電子メールによる問い合わせが殺到しておりますため、すべてのご質問にお答えすることができない状況です。したがって、電子メールでお問い合わせいただきましてもご返答できない場合がありますので、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

ABIT は最高の品質と互換性の高い製品を提供するために、互換性や信頼性に関するテストを重ねております。万一サービスやテクニカルサポートが必要となりました場合には、**まずリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせください。**

できるだけ早く問題を解決するために、以下に説明します処理を行っててください。それでも問題を解決できない場合には、弊社のテクニカルサポートへお問い合わせください。より多くのお客様に、より質の高いサービスを提供するために、皆様のご協力をお願いします。

1. **マニュアルをお読みください。** マニュアルの作成には万全の注を払って、どなたにもお分かりいただけるように説明してあります。意外と簡単なことを見落としている場合もありますので、再度マニュアルをよくお読みください。マニュアルにはマザーボード以外についても重要な情報が記載されています。マザーボードに同梱されている CD-ROM には、ドライバのほかにもマニュアルの電子ファイルも格納されています。必要であれば、弊社の Web サイトまたは FTP サーバより、ファイルをダウンロードすることもできます。
2. **最新の BIOS、ソフトウェア、ドライバをダウンロードしてください。** 弊社の Web サイトをご覧ください。バグや互換性に関わる問題が修正された最新バージョンの BIOS をダウンロードしてください。また周辺機器のメーカーにお問い合わせになり、**最新バージョンのドライバをインストールしてください。**

3. **Web サイト上の専門用語集および FAQ（よく聞かれる質問）をお読みください。**
弊社では今後も引き続き FAQ を充実させていく予定です。皆様のご意見をお待ちいたしております。また新しいトピックにつきましては、HOT FAQ をご覧ください。
4. **インターネットニュースグループをご利用ください。** ここには貴重な情報が数多く寄せられます。ABIT Internet News グループ (alt.comp.periphs.mainboard.abit) はユーザどうしで情報を交換したり、それぞれの経験を語り合ったりするために設置されたフォーラムです。たいいていの場合、知りたい情報はこのニュースグループ上にすでに記載されています。これは一般に公開されているインターネットニュースグループであり、無料で参加することができます。ほかにも次のようなニュースグループがあります。

alt.comp.periphs.mainboard.abit
alt.comp.periphs.mainboard
comp.sys.ibm.pc.hardware.chips
alt.comp.hardware.overclocking
alt.comp.hardware.homebuilt
alt.comp.hardware.pc-homebuilt
5. **リセラーへお問い合わせください。** 技術的な問題につきましては、ABIT が認定したディストリビュータにお尋ねください。弊社の製品はディストリビュータからリセラーや小売店へ配送されます。リセラーはお客様のシステムの構成内容をよく理解していますので、お客様が抱える問題をより効率よく解決できるはずですが、お客様が受けられるサービス内容によって、お客様が今後もそのリセラーと取り引きを続けていきたいかどうかを判断する材料にもなります。万一問題を解決できない場合は、状況に応じて何らかの対応策が用意されているはずですが、詳しくはリセラーにお尋ねください。
6. **ABIT へお問い合わせください。** ABIT へ直接お尋ねになりたいことがございましたら、テクニカルサポート部へ電子メールをお送りください。まず、お近くの ABIT 支店のサポートチームにお問い合わせください。地域の状況や問題、またリセラーがどのような製品とサービスを提供しているかは、地域により全く異なります。ABIT 本社には毎日世界各国から膨大な量の問い合わせが殺到しておりますため、すべてのお客様のご質問にお答えすることができない状況です。弊社ではディストリビュータを通じて製品を販売いたしておりますため、すべてのエンドユーザの皆様へサービスを提供することができません。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。また、弊社のテクニカルサポート部に質問をお寄せになる際は、問題点を英語でできるだけ分かりやすく、簡潔に記載していただき、必ずシステム構成部品のリストしてください。お問い合わせ先は次の通りです。

北米、南米 *ABIT Computer (U.S.A.) Corporation*
 45531 Northport Loop West, Fremont CA, 94538,
 U.S.A.
 電話: 1-510-623-0500
 ファックス: 1-510-623-1092
 営業: sales@abit-usa.com
 南米営業: ventas@abit-usa.com
 マーケティング: marketing@abit-usa.com
 ウェブサイト: <http://www.abit-usa.com>

RMA センター 46808 Lakeview Blvd. Fremont, CA 94538, U.S.A.

英国、アイルランド *ABIT Computer (U.K.) Corporation Ltd.*
 Unit 3, 24-26 Boulton Road, Stevenage, Herts SG1
 4QX, UK
 電話: 44-1438-228888
 ファックス: 44-1438-226333
 電子メール: sales@abitcomputer.co.uk

ドイツ、ベネルクス (ベルギー、オランダ、ルクセンブルク)、フランス、イタリア、スペイン、ポルトガル、ギリシャ、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、スイス *AMOR Computer B.V. (ABIT's European Office)*
 Jan van Riebeeckweg 15, 5928LG, Venlo,
 The Netherlands
 電話: 31-77-3204428
 ファックス: 31-77-3204420
 営業: sales@abit.nl
 ウェブサイト: <http://www.abit.nl>

オーストリア、チェコ、ルーマニア、ブルガリア、スロバキア、クロアチア、ボスニア、セルビア、マケドニア *Asguard Computer Ges.m.b.H*
 Schmalbachstrasse 5, A-2201 Gerasdorf / Wien,
 Austria
 電話: 43-1-7346709
 ファックス: 43-1-7346713
 電子メール: asguard@asguard.at

上海 *ABIT Computer (Shanghai) Co. Ltd.*
 電話: 86-21-6235-1829
 ファックス: 86-21-6235-1832
 ウェブサイト: <http://www.abit.com.cn>

ロシア、CIS *ABIT Computer (Russia) Co. Ltd.*
 営業: sales@abit.ru
 Info: info@abit.ru
 ウェブサイト: <http://www.abit.ru>

ポーランド **ABIT Computer (Poland) Co. Ltd.**
Przedstawicielstwo w Polsce ul. Wita Stwosza 28,
50-149 Wrocław
電話: 48 71 780 78 65 / 66
ファックス: 48 71 372 30 87

日本 ウェブサイト: <http://www.abit4u.jp>

台湾本社 **ABIT Computer Corporation**
No. 323, Yang Guang St., Neihu, Taipei, 114,
Taiwan
電話: 886-2-8751-8888
ファックス: 886-2-8751-3382
営業: sales@abit.com.tw
マーケティング: market@abit.com.tw
ウェブサイト: <http://www.abit.com.tw>

(上記以外の地域へのサービス
台湾は8+ GMT 時間で
お客様の地域とは休日が異なる
可能性があります。)

7. **RMA サービスについて。**新しくソフトウェアやハードウェアを追加していないのに、今まで動いていたシステムが突然動かなくなった場合は、コンポーネントの故障が考えられます。このような場合は、製品を購入されたリセラーにお問い合わせください。RMA サービスを受けることができます。
8. **互換性に関する問題がある場合は ABIT へご一報ください。**弊社に寄せられるさまざまな質問の中でも ABIT が特に重視しているタイプの質問があります。互換性に関する問題もその1つです。互換性がないために問題が発生していると思われる場合は、システムの構成内容、エラーの状態をできるだけ詳しくお書きください。その他のご質問につきましては、申し訳ございませんが直接お答えできない場合があります。お客様がお知りになりたい情報は、インターネットニュースグループにポストされていることがありますので、定期的にニュースグループをお読みください。

ありがとうございました。

ABIT Computer Corporation

<http://www.abit.com.tw>